

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2018
2
第23号

球磨川ツクシイバラを後世に



球磨川の「オンドリ」坂本町で © 平岡健三

月に願いを。

織月

せんげつ

Japanese Traditional Rice Shochu
SENGETSU



織月城（人吉城跡）にて撮影

織月酒造株式会社 SENGETSU SHUZO CO.,LTD. 〒868-0052 熊本県人吉市新町一番地 TEL0966-22-3207
飲酒は20歳を過ぎから。飲酒運転は法律で禁止されています。
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発達に悪影響を与えるおそれがあります。 <http://www.sengetsu.co.jp/>

雑誌 81779-02-8



4910817790284
00500

月刊 くまがわ春秋 第23号 2018年2月15日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号 <http://www.hitooyoshi.co.jp/> info@hitooyoshi.co.jp
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759

定価 540円 本体 500円

最近のおもな出来事

- 1月19日(金)
 - ▽平成29年度「人吉市子ども議会」
- 1月20日(土)
 - ▽熊本県地域景観セミナーIN八代(やつしろハーモニーホール)
- 1月21日(日)
 - ▽織月カップ男子テニスダブルス大会(人吉市)
- ▽新春・七つの蔵の利き酒と味祭り(多良木町交流館石倉)
- 1月27日(土)
 - ▽人吉市東西「ミセン」講座「フェスティバル」展示発表
- 1月28日(日)
 - ▽人吉市文化財防火デー防火訓練(老神神社)
 - ▽多良木町文化財防火訓練(太田家住宅)
- ▽人吉市鍼灸マッサージ師会「新春文化講演会(青井阿蘇神社)」
- ▽山頭火ゆかりの「宮川屋」跡地標柱除幕式(人吉市上青井町の出町橋脇)
- 2月1日(木)
 - ▽「人吉球磨は、ひなまつり」オープニングイベント(湯前駅)
- 2月4日(日)
 - ▽くまがわウインドアンサンブル第24回定期演奏会(人吉市カルチャーパレス)
- 2月9日(金)
 - ▽水防炎タイムライン・カンファレンス2018 in 球磨川(人吉市カルチャーパレス)
- 2月10日(土)
 - ▽第8回球磨焼酎蔵元銘酒まつり(あさぎり町ポッポ一館)

— 2月(第23号) 目次 —

- 駅・ものがたり⑳ 「あさぎり駅」松本晋一…14
- 柳人があじわう漱石俳句㉓ いわさき楊子…19
- くまがわの神さん仏さん⑱ 宮原信晃…20
- 木崎考古学と遺跡④ …24
- くまがわすじの考古地誌⑱ 木崎康弘…26
- 建築みてある記⑱ 森山 学…30
- 記憶の落ち穂㉑ 坂本福治…35
- 荒瀬のおじちゃん 上村雄一…36
- おこし(粗粒) …38
- 小山勝清ノート① 西郷魚…40
- エンブリー・ノート② 「須恵村の階層構造」…41
- トルストイを読む② 喜多岡洋…44
- オリエント急行殺人事件 久馬 俊…45
- 漢和字典は面白い⑥ 鶴上寛治…47
- 「あがつ段」㉑ 上杉芳野…48

巻頭企画

- 球磨川ツクシイバラを後世に 桑原史佳…6
- 石橋を訪ねる⑧ 「境橋」上村和代…10
- 自立した女性「杉谷つも」①…12
- 流域の話題…3

今月の一言

『文読む月日』(レフトルストイ編著 北御門二郎訳)より

もし物事が我欲を離れ、我意を離れてなされるならば、何もかも容易に、何もかもうまく行われるであろう。

表紙写真



球磨川の「オシドリ」(八代市坂本町にて)

オシドリは深水発電所跡や段駅近くの川岸で観ることがあります。北海道や本

州中部以北で繁殖し、冬季になると本州以南(主に西日本)へ南下して越冬します。

撮影/平岡健三(八代市)

- 方言を味わう㉑ 前田一洋…50
- 新・日曜釣り師心得⑤ 宮原赤竿…52
- 鶺鴒短歌会 一月詠草…55
- 山に行こうよ!⑪…56
- 夏目友人帳のふるさと巡り②…58
- 陸に上がった帝国海軍と私 瀬戸致行…60
- 倉敷便り⑬ 原田正史…62
- 相良清兵衛生誕四百五十年 山口啓二…66
- くまがわ狂句 村上鬼拳…67
- 小説・相良清兵衛② 山口啓二…68
- 外来語から学ぶ英単語② 藤原 宏…74
- ひるしのげっかん・ぎひょう…74
- 今月の詩㉒ 「ぜんざい」…75
- 字図で見る球磨の地名② 上村重次…76
- いもご短歌会…79
- 話題を追って…80
- くまがわ学習塾⑬…82
- おっとわつとあすび⑫ 松舟博満…83
- 今月の秀句⑫ 永田満徳…84
- 前号「くまがわ学習塾⑬の答え」…87

本誌の取扱店舗

- 清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅前)
- 道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

国宝指定十周年記念講演会

「球磨で〓名所は〓青井さんの御門」と唄われる球磨の六調子の出だしに登場する青井阿蘇神社は、平成二十年に国宝指定され今年で十年目を迎えた。「これまでの十年とこれからの十年」と題して宮司である福川義文さんの講演を聞いた。これまでの十年は県内初めての国宝指定に翻弄される毎日が語られた。

「かえってお金が無くて良かった、工事が開始されてなくて良かった。神さんのお陰はい」と物事が進まない状況にあっても先でちゃんと神様が導いて下さったと、宮司という責任のある重庄の中で苦勞されたお姿も垣間みえた。

昔、人吉藩家老相良清兵衛が江戸へ呼ばれ津軽藩弘前へ流された。残った家臣百二十一名が人吉城内で討ち死にあつたという大事件「お下の乱」があつた。

その翌年寛永十八年（二六四二）、混沌とした相良城下の青井神社へ二基の御輿が奉納された。その御輿を現代の技術で美しく復元すべく京都へ送り、この度復元されて神社へ帰ってきた。その御輿の傍らに板札があり、そこに書かれた内容を宮司は熱を込めて今の言葉に読み替えた。

「我々の願いは今の幸せがいつまでも続き神様への願いが実現する事にあります。すなわち、いろんな人々が力を合わせ雨も必要な時には降り、穏やかな日が続きますように。そして田畑の作物が実り御領内が平和に治まり民が豊かに暮らせるように」と願いを込めた板札だった。

続けて宮司は語る。

「社やしろに会う、これが社会であり、これからの十年は、いろんな人達が集う所にしなければならぬ。今の世に生きる老いも若きも、そして我々の先祖様も、そしてそればかりではなく、これから生まれて来る人達も含めた、『過去・現在・未来』の神社にしていかなければならない。それを形にしたのが、過去に感謝する文化苑、社殿では神様に祈願し、新しく出来る参集殿ではみんなで焼酎を飲みながら大いに未来を語ろうと思えます」と締めくくった。（宮原信晃）

巻頭言

「宮川屋」はいつに！ 山頭火ゆかりの場所に標柱



関係者による「標柱」のテープカット（1月28日、人吉市上青井町）



標柱は高さ1m 40cmの木製

定型句に縛られぬ自由律俳句を

詠み、「放浪の俳人」とも称される種田山頭火（1882～1940年）が、人吉を訪れた際に泊まった木賃宿「宮川屋」はどこにあつたのか――。長年その謎を追っていた市民グループ「人吉・球磨 山頭火の会」（早川亘会長）は、独自の調査より市内中心部の山田川をまた

ぐ出町橋付近にあつたことを確認。宮川屋の跡地を示した標柱を人吉市上青井町の出町橋脇に設置し、1月28日には除幕式があつた。

同会は、2014年から人吉駅前や山頭火が手紙を受け取つたと思われる出町郵便局跡地など、山頭火ゆかりの場所に顕彰碑や案内板を設置する活動をしており、今回で7カ所目となる。

除幕式には関係者15名が集まり、テープカットが行われ、近くのホテルに場所を移して祝賀会も開かれた。

八代市から参加した前山光則さんは、「人吉に新たなモニユメントが出来て感無量。今後は球磨川流域全体で山頭火の足跡をアピールできれば」と話していた。

市政について執行部の考えを聞く「人吉市子ども議会」が1月19日、仮庁舎の市議会本会議場で開かれ、市内の小学校6校の児童代表が産



「人吉市子ども議会」で意見を述べる東間小学校の代表

業や観光の振興策など提言し、市の担当者からの答弁を聞いた。

同議会は、「みんなできつこう人吉市の未来」をテーマとして、未来を担う子どもたちが、市議会の模擬体験を通して市民生活と政治との関わりや、同市が直面する課題について考える機会を持つことを目的として開催されたもの。

城の石垣でボルダリング？

午前10時から始まった同議会は、市内の小学校6校から20名が参加。各学校で考えた問題を、それぞれのクラスを代表して一般質問を行い、松岡隼人市長や副市長・教

育長・各部長・局長が答弁。「人吉

の経済産業の活性化」「犬童球溪誕生祭の開催と人吉城の復元」「障がい者の方の就労と高齢者の方の移動手段」など12項目について提言を交えながら質問した。



議会中継システムによりネット配信されたが、スマホでは閲覧できなかった

東間小学校からは「人吉城の石垣を活用したボルダリングはどうか」との提案があり、歴史文化課の担当者は、「人吉城は大事な文化財なので石垣での競技は無理だが、アミューズメントの一例として参考にしたい」と答弁した。

イベント交流新施設、建設中！道の駅坂本

さかもと館（八代市坂本町荒瀬）の中庭部分に交流施設が設置される。厨房施設をもうけ「鮎やかな食堂

などが利用する予定。ジビエ料理の販売など計画しているが、詳細は未定。

3月中に外装工事を終了し、6月から運用開始。坂本町活性化の拠点になることが期待されている。本施設については5月号で続報する。



交流施設のイメージ図



「さかもと館」全景



3月中に外装工事を終了し、6月から運用開始する



球磨川ツクシイバラを後世に —使命を胸に「手づくり郷土賞」に挑む—

球磨川ツクシイバラの会会長 桑原史佳



5月中旬から6月初旬まで可憐な花を咲かせる球磨川河川敷のツクシイバラ（球磨郡錦町木上にて）

国交省の手作り故郷賞ふるさとふるさとに応募してみませんか？ というお誘いをいただいたのは、8月初めの暑い最中

でした。「地域の自然・歴史・文化を生かした、全国の優れた取り組み状況をj知ること、私たちの郷土のあり方や将来を考えてみませんか」という趣旨のものです。

ツクシイバラ公式発見100周年の記念すべき年でもあったので、応募してみようということになり、球磨川ツクシイバラの会が11年間、撮

りためていたすごい量の画像を全て見てみることにしました。

除草作業・会議・開花時の自生地でのコンサートやスケッチなどのイベント、おもてなしの準備や様子、花を見に来られた人達の笑顔、くま川鉄道のツクシイバラの里・木上駅の除幕式、くま川鉄道車両内での木野雅之氏のバイオリンコンサートやツクシイバラ列車、ツクシイバラグッズなど、懐かしい画像が出てきました。書類を提出したら「3分以内

の動画もいみたいですよ」と国交省八代の山本課長から連絡があり、再度取りかかりました。毎年ツクシイバラの花の中でコンサートを行っている「ビエント」の「ツクシイバラ」の曲をBGMに作りました。

12月半ば頃、手作り故郷賞に選定されたと国交省人吉出張所の上水樽所長から連絡がありました。全国から一般部門（初めて応募する団体）が16団体、大賞部門（過去に受賞した団体）3団体が選定さ

れたそうです。会の忘年会で伝えたら、三和建設の佐藤社長から「この賞の存在は知っていました。なかなか取れない賞ですよ」と教えてもらい、「これはすごいことかもしれない」と、賞の重みを徐々に感じ始めた年末でした。



東京虎ノ門の発明会館で開催された「手作り郷土グランプリ」のプレゼン（1月28日）



参加した球磨川ツクシイバラの会のメンバー

新年になり、今度は1月28日に東京虎ノ門の発明会館で開催される「手作り郷土グランプリ」のプレゼンの準備に取りかかりました。入賞した団体からグランプリを決めるものです。発表は3分間。わずかな時間に私たちの思いを詰め込む作業は至難の業でした。

東京には会から6名、上水樽所長、錦町役場企画観光課ツクシイバラ係の大村さんが行くことにな



ロビーの隅っこで打ち合わせ



発表する私

りました。

私は前泊、その他のメンバーは当日早朝5時出発で東京へと向かいました。ところが当日、球磨はまさかの積雪。心配しましたが、一行は無事会場に到着しました。

開始直前に打ち合わせをロビーの隅っこで行いました。ツクシイバラのTシャツを着て、ツクシイバラ

グッズは由美子さん、ツクシイバラリキユールは大和一酒造元から智子さんが借りてきてくれました。所長にお願ひしていた横断幕は事務局長の遠山さん。おもてなし部長の洋子さんは、いつもの日よけ帽子に手作り梅干しと紙コップを持って。PC操作担当の役場の大村さんは、私の発表に合わせてのエアークリックの自主練習です。

私たちのプレゼンは13番目。待つことおよそ1時間半。みんなでステージに立ち、3分の発表と3分の質疑応答を終え、会場の指定された

席に戻りました。どの団体も、とても素晴らしい大きな取り組みをされており、立派なプレゼンでした。

全ての発表が終わわり、審査員の会議が始まります。「ここまで来たけん、よかたい」と、自分自身に言い聞かせながら発表を待ちました。会議が白熱したようで、時間が少し遅れての発表となりました。

審査員長が、大賞部門、一般部門のグランプリ賞を発表しました。そして、「ベストプレゼン賞：ツクシイバラ：」私達は思わず、「えっ、えええーっ?」と、歓声を上げました。審査員から「素朴さと手作り感、華やかさが素晴らしい。魅力的で愛情のあるプレゼンだった」とうれしい評価をいただきました。グランプリ賞は次点だったようです。

表彰の伝達式が行われます。

この賞は、除草作業・おもてなしのボランティアや私たちの活動を応援してくださいといる皆さん、いろんな方面から私たちの活動を支えてくださっている町や県や地元の国交省の職員の皆さんと一緒にいただいた賞です。心からありがとうございます。

これからも、球磨川ツクシイバラの会は、開花前の除草や美化作業、開花時のおもてなし、100年後もこの光景がずっと続くように次世代へ伝えていく活動を頑張りたいと思います。ご協力とご支援をよろしくお願いします。

次回の除草作業は3月4日(日)です。

【くわはら・ふみか／球磨郡錦町】

ベストプレゼン賞は、会場で発表を聞いた人たちの投票で決まります。なによりうれしい賞をいただきました。「ハートの花びらのツクシイバラ：という言葉に入れましたよ」「開始前に練習している姿を見て入れましたよ」「見に行ってみたいと思うプレゼンでした」「私たちの球磨弁話を聞かれて「熊本からですか?」と声をかけられた方たちも「入れましたよ」と、笑顔で言ってくさいました。

私たちは、「いつものまんま、そのまんまでいこうね」での発表でしたが、地道な活動を評価してもらい、とてもうれしかったです。

2月26日には、国土交通大臣

境橋

水俣市大字袋町神川

上村 和代



「境橋」全景 (川下側)。明治16年(1883)築造。橋長13.5m、橋幅4.9m。単眼アーチ橋。石工・不明。

旧薩摩街道の薩摩と肥後の国境の川に架かる。西南戦争も終わりの国内も落ち着いて明治十六年に造られた。これ以前に橋はなく、川幅の狭いところを選んで、石伝いに渡っていたという。

境橋にはほかの石橋と同じく架橋に携わった職人の名前などは残っておらず、資料にも「肥後の石工」としか書かれていない。石橋の組み方には、高度な技術を要する「扇積」が使われている。これは、現在鹿児島に残る石橋によくみられる技法で、その石橋を組んだ石工こそ「肥



橋の下

後の石工」を代表する岩永三五郎を中心とした「種山石工」たちであることから、境橋も種山石工またはその弟子筋の職人の手によるものである可能性は高い。肥後と薩摩の国境という長年緊張状態にあった場所に、初めて架けられた歴史的・

記念碑的な橋を種山石工が手掛けたと思うと面白い。

木崎康弘氏の著作「肥後と球磨その原史世界に魅せられし人々」のなかに、高知の考古学者・寺石正路が球磨を訪ねる途中、この橋を渡ったことを「稿本 九州漫遊記」に記しているところがある。

「行く二里ニシテ誓橋ニ来ル是ヨリ以往ヲ肥後国トス」(192頁より抜粋)

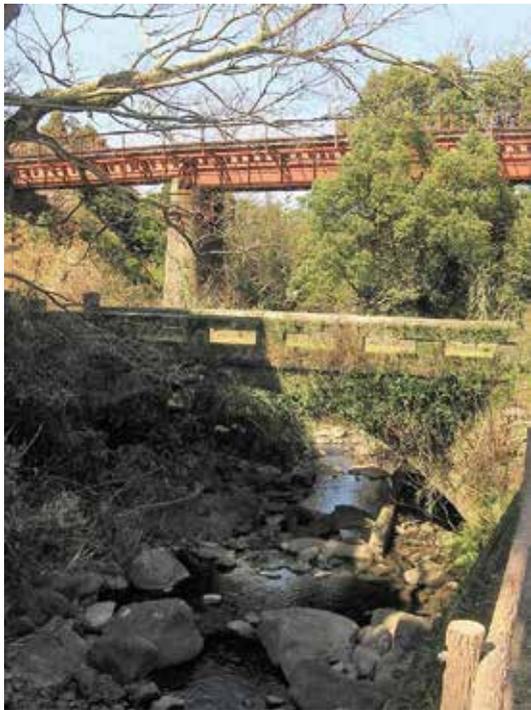
寺石は橋の名前を「誓橋」と誤って書き残している。境橋には、出水・水俣側の両方に変体仮名で橋名が記してあり、出水側は確かに「ち可以はし」に見える。ほんの二行の、しかも間違えた記述ではあるが、この間違いは現地で見物を見ていないと起こりえない。寺石が確かにこの橋を渡つ

た証拠であり、当時二十一歳の青年考古学者が、そのくらい球磨行きを急いでいたのを感じられる。まさに、球磨に『魅せられた』人の人となりまで感じられる。

【つえむら・かずよ／水俣市】



「ち可以はし」とも読める出水側の石柱



川上から

自立した女性

杉谷 つも

①

平岡優平

つもの選択

急峻な山にかこまれた地・旧栗木村日当（現八代市泉町日当）。明治20年（1887年）3月18日、中島新八郎・ヨシの次女として、つもは生まれた。子ども時代、少女時代に、つもが、どのような生活をすごしたのかは知られていない。



杉谷 つも

明治40年（1907年）、つもは杉谷新造と結婚し、翌年長ヨシエを出産し、明治42年（1909年）、二人は栗木村を離れて八代

郡築に入植した。

八代郡の造成地であることから、「郡築」とよばれた場所は、八代郡の所有地で、入植者は八代郡に入植料（小作料）を支払うことになっていた。しかし、八代郡は田畑をつくったわけではない。堤防を築くだけで、塩を抜き、牡蠣の殻を除去し、用水路をつくり、田畑にする作業は入植者がすべておこなった。入植者は田畑をつくりつつ小作料を支払い生活した。

そうした事情を十分に承知していたかは確認できないが、明治42年（1909年）に、新造夫婦は栗木村を離れ長女ヨシエを連れて郡築に移り住んだ。最初は家を用意しなければならなかった。とりあえず掘っ立て小屋ですませ、余裕ができるはずだから、そのときになったら新築すればいいと考えていた。その機会がおとずれる前に、次女ツギエが生まれたが、直ぐに、その子は死んでしまった。子の夭折は新造夫婦の心を重くしたのであるが、小作料支払いの圧力のなかで二人は過酷な労働をつづけるしかなかった。掘っ立て小屋での生活はつづいた。大正3年（1914年）三女百枝、翌年長男晴久

が生まれた。

晴久の出生は夫婦にとつて大きな喜びであったろう。後継が生まれて安心もしたのであろう。ところが、晴久が生まれてから、わずか5日後に新造が急死した。配偶者が死んだのだ。それだけでも限りなく辛い。しかし、

それだけでなく働き手も失ったことになる。子どもたちは幼く、だれがみても生活していける途は閉ざされたようにみえた。新造夫婦は二丁二反を耕していた。それを、子育てをしながら、つも一人で耕しつづけていくのは、どうみても不可能だ。

新造の父親（つもの義父）は、つもに再婚をすすめた。孫のことなどを考えた「親心」であったろうが、つもは、再婚せず、結婚前の中島に復籍もせず、杉谷籍のまま、自立の道を選んだ。二丁二反のうち八反を自分のものとし、残りは新造の弟に譲った。

八代郡に小作料を支払いながら、掘っ立て小屋での生活はつづいた。

【ひらおか・ゆうへい／八代市】



郡築三番町樋門の東側。袖石垣の間に十連アーチ（©森山 学）



郡築の農場は限りなく広い

河口から上流まで、その駅を訪ねる

球磨川の駅・ものがたり



連載その23 くま川鉄道・東免田駅
熊本産業遺産研究会 松本晋一

あさぎり駅から東免田駅間の路線は、あさぎり町役場そばの八幡跨線橋（昭和62年）手前から切通にかけてのわずかなカーブの他は高低差約1.2m、距離約2.5kmのほぼ直線が続く。途中、左手の小高い丘には小熊野神社と農魂の碑が在る。



2連の井口川橋梁（平元年8月福）

また県道の岡原・須恵線の吉井第一踏切を過ぎると、左に鬼の釜古墳が道の中ほどに見えてくる。その先1.1kmの井口川橋梁（12.9m、昭和47年改修で2連）を渡れば築地地区、ここに東免田駅がある。この井口川は深田の庄屋地区のすぐ上手の球磨川に注ぎ、この辺りがくま鉄沿線では球磨川からは一番遠い距離になる。

東免田駅

この駅は55年前の国鉄時代、昭和38年（1963）4月5日に東多良木駅と同時に開業した新しい無人駅である。開業の2年前、免田・岡原・須恵の三町村が国鉄へ陳情、ホームの工事にも地区住民が協力して出来た駅。隣のあさぎり駅か



SL58654と旧駅ホーム（昭49.3.10福）

らは2.4km、次の公立病院前駅までは1.1kmの距離にあり、4両が停車可能な1面1線のホームを持つ。所在地はあさぎり町免田東築地4128-3。昭和56年の1日平均乗車数は普通客16、定期客70名だが、昔の盆と正月は賑わったという。人吉温泉駅から当駅までは520円。



改築前の待合所（昭58.7福）

ホーム入口にはこれまでの無人駅ホームには見られない鋼製パイプで組まれたデザインタワー、その先にお嫁さんの文金高島田の「角隠し」を連想する黄色い屋根付きの1本柱が3本並ぶ。その奥にプラスチックで囲まれた待合ドームも鎮座する無人駅である。ホーム手前、屋根付きの広い駐輪場脇には公衆電話が設置してある。

このホームから左手に築地熊野神社、その奥には深田の高山、右手には九州



東免田駅全景（南面）

山脈南端の脊梁群が眺められる。以前は従来の無人駅スタイルの構造であったが、付近に築地熊野神社（町指定有形文化財）があり、平

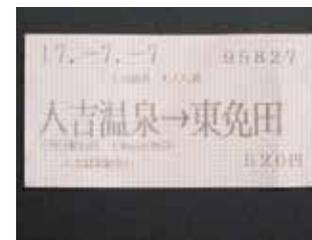
成5年3月の築地五輪塔史跡公園の整備工事落成と共に、この東免田駅舎と駅前広場が整備された。入口のタワーは史跡公園にある五輪塔のシンボル化、黄色い屋根は日本南限のリユウキンカ（立金花）の花をイメージした沿線の駅ではユニークなものである。この花の免田丸池の自生地は前原勘次郎の発見とさ



ホームリニューアル当時（平 5.3.28 福）

れ、キンポウゲ科の多年生草木で、長野の尾瀬沼が知られる。

列車の発着するホーム東側には「あさぎり町学校給食センター」（平成17年）が隣接、横には特別養護老人ホーム「りゅうきんか」も在り、駅前車場や公衆トイレが完備されている。すぐ脇には国土地理院の計測基準三角点が設置されていた。



ホーム掲示他(上)

人吉から
520円



三角点（上）

駅すぐ北側400mに在る築地熊野神社（熊野権現）は和歌山県新宮の伊邪那岐大神他をご神体とする神社で、例祭日は11月9日。近くの方の話では正月はこの熊野神社をお参りしてから、次におかどめ幸福駅の岡留神社、そして人吉の青井神社に参拝することが多いとのこと。この神社の左隣りには薬師如来の祀られる茅葺き屋根の薬師堂がある。境内に残る76基の築地五輪塔群はこの神社の別当、住職の墓碑とされている。またここには「大

幣」「田楽」などの求麻神楽も伝承されていると言う。この地からの冠雪の市房山遠望は絶景である。

「他にも近くのお大師さんの秋祭りには、露店が出て昔は賑わっていたが、最近ほとんど聞かない」と近くの農家の方のお話。また「昔はこの道の先の中島橋の所に『渡し』があり、小船に乗り張つてある綱を引きながら渡る『渡し』だった。小



ホームから見た築地熊野神社の杜



五輪塔と薬師堂（左）

が楽しみで、人吉に買い物がてらに行き、青井さんの手前に回転饅頭屋があり楽しんでいた。以前はSLが貨物をいっぱい引いており、時々、ここでも汽

車轢かれ事故もあった。今でもジゼル comes 時間を時計代わりに使っているし、免田での宴会に行く時にも湯前線をタクシー代わりに利用している」とのコメントをもらう。

東免田駅の北側、球磨川の畔には寺池と中島親水公園、中島橋を



冠雪の市房山

柳人があじわう漱石俳句

— 23 —

いわさき楊子



須恵地区遠景 (川瀬橋より)



昭和10年当時の三輪車 (エンブリー著『須恵村』)

渡れば須恵中学校やつつじヶ丘学園のある頓所である。昔の子どもたちの川遊びは七曲りの湖、寺下の湖などで水遊びをしていたとのこと。その上手には柳橋川が球磨川に注ぐ。その下流1kmのかわせ橋を渡った旧須恵村は、昭和10〜11年ここを訪れた米国社会人類学者ジョン・F・エンブリー夫妻が滞在した村(球磨

川河口から上流78・8kmの地点)。夫妻来日の動機を作った友人愛甲慶寿家氏は、写真の国産三輪車に乗り昭和12年11月の早朝、霧による踏切事故(吉井第二)で亡くなっている。この湯前線自動車事故は機械化されつつある近代化の犠牲でもあらう。近年、この須恵村での文化人類学研究が再注目されている。当時

は深田 賑わいを見せていたという。と須恵 賑わいを見せていたという。は深田 賑わいを見せていたという。は深田 賑わいを見せていたという。

〈参考資料〉

- ・ユニークな駅舎完成 平成5年3月10日 人吉新聞
- ・球磨の駅「東免田」平成56年6月29日 人吉新聞
- ・くま川鉄道湯前線 人吉・湯前間本線図(くま川鉄道KK)
- ・盆地を走る「東免田駅」平成21年5月18日 人吉新聞
- ・John F. Embree "SUENOMURA: A Japanese Village 1943 The University Chicago Press"
- ・田中一彦「忘れられた人類学者 エンブリー夫妻が見た日本の村」2017・3 忘羊社
- ・(聞き書き) 中村全良氏 愛甲利孝氏
- ・(協力) あさぎり町教育委員会 北川賢次郎氏 福井弘氏

俗もまた良し

初夢や金も拾はず死にもせず

(漱石28歳)

これはすごい川柳だ。いやいや間違ひ、俳句だ。「初夢や二富士三鷹三茄子」などという故事のめでたいフレーズは吹っ飛ばす。俗の象徴としての金と重い死が軽い物言いでありフレイクンされていて、むしろすがすがしい。年があらたまろうとも連綿とつづく生がある。ほかに金を詠んだ句を見つけた。

恩給に事足る老の黄菊かな

(漱石40歳)

この年齢のとき、漱石は朝日新聞社に小説を書き職業作家として入社している。熊本の高高では教師として勤務したが、その後40歳まで、とうとう正式な勤め方はしなかった漱石が恩給を詠む。

穴のある銭が袂に暮の春

(漱石41歳)

「穴のある銭」が半端な印象で俗っぽい表現だ。場末の酒場なら一杯くらいは飲めそうな暮の春です、ね、金さま。4年3カ月間の在熊時には千句ほど俳句を詠んだ漱石だが、明治33年を過ぎると句作のペースが格段に落ちる。イギリス留学と、その後は熊本の俳句仲間と離れ東京在住となったことが一因といえる。そして小説を書き始めたからだ。しかし全く句を詠まなかったわけではない。自分で描いた南画に俳句をしたためたりして生涯楽しみとして続けている。しかし初期のころの漱石らしい面白い俳句は段々と少なくなり、柳人としてはものたりない。

命には関係のない金が必要
宝くじお金以外は当たらない
お役人酒場でそつと金のこと

【いわさき楊子／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

球磨村お堂巡り その⑦

宮原信晃

川島観音堂



球磨村・川島にある布ヶ滝。あたり一面は雪化粧であった（2月4日）

立春の朝から雪が舞った。

本日の目的地、球磨村の川島集落にお住まいの川島朝男さんからの電話で「朝の7時から道が白くなつたばい」と連絡があったけれど、行かだけ行ってみようと編集者（ま）さんと球磨村へ向かった。球磨村役場の下から球泉洞の前を通り国道219号を八代方面へ。水を減らした瀬戸石ダムを見ながら通り過ぎ、そこから数キロ行って右折。

楮木集落の虚空蔵堂の下を通じて

約5キロの山道を私が運転する普通車はソロソロと登って行った。

雪が舞い、道のカーブに真っ白いカーペットを敷いた場所や、真っ黒く凍つていそうな急カーブの道も恐る恐る上へ登って行く。白や黒といった対照的な路面を、（ま）さんは口を開いたまま助手席に無言で座っている。

崖下の方を見ると足元から滑る気がするので、なるべく切り込んだ山の壁に寄り添うように内回り而走って行く。

ドキドキと心臓の鼓動が高鳴るころに、ようやく川島集落の公民館の大きな屋根を見て安心したが何と、そこらからがもつと登りの急なカーブの道で、しかも真っ白の雪の道であった。



「川島観音堂」と川島朝男さん

そこから何とか三叉路に行き着いて右折し布ヶ滝へ向かった。滝の近くの広場に車を停めて車外に出た。

顔が痛く耳がつままれた痛みもするマイナス2℃の空気の中であった。早足で滝へ向かい写真撮って車内に逃げ込んだ。そこから少し降りると文化6

年（1809年）の滝平の観音様にお参りして、本日の目的地「川島観音堂」へ向かった。

ここに住まい



滝平の観音様の前で。川島さんと編集者（ま）さん

川島観音堂の周りには霜柱が立っていた。もう何十年振りの霜柱だ。（ま）さんも喜んで土の中から伸びている氷の柱を触っている。観音堂の仏様の扉を開き、線香ロウソクでお参りした。



取材中の私。川島集落で暮らし続ける川島さんの話に耳を傾ける

る。しかしである。
この川島集落の
真下の集落は楮
木集落で、江戸
時代は相良藩の
川奉行が居られ
た場所。そこでは、
「向宗禁制」に
目を光らせ、球
磨川の船の行き来
を取り締まる川の
要衝なのである。
楮木の上にある川
島のお堂が阿弥
陀様では都合が
悪いのだ。いや、
阿弥陀様が御本
尊となれば、川
島の集落の者は全

て捕らえられ処罰されるのだ。だから仲良く、阿弥陀、観音様が並んでおられ、観音様が御本尊となつているのだろうか。
「帰りにうちに寄って茶ぐどん、飲んで行きなよ」と川島朝男さんからお声がかかり、朝男さんのご自宅へ行った。奥様より出迎えて頂き、奥の部屋でお茶を飲みながら、南向きの頑丈なガラス窓の向こうに山の風景を楽しんだ。
山のとっぺんを雪の風が走っている。
江戸の頃も、同じ風景で同じ雪混じりの風が吹いていたのだろうか。
【みやはら・のぶあき／FBお地蔵さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】



左から観音座像、阿弥陀如来座像

仏様は、2仏。右が阿弥陀如来座像、左は観音座像である。明暦2年（1656年）に建立され文化2年（1805年）に彩色され

たとお堂の前に球磨村教育委員会の説明書きがあった。

他のお堂の場合
は、阿弥陀様と
観音様が並んでお
られれば、阿弥陀
様が御本尊で、観
音様が脇侍となる
が、この川島観
音堂は観音様が御本尊である
らしい。『仏がみちびくふる里
めぐり』という資料には「明治
13年の仏堂調べでも、字開畑
1292番地『観音堂』と記
載されています」とあった。
しかし、この球磨村の、特に
山の奥の奥には「隠れ念仏（一
向宗・今の浄土真宗）」の方々



川島観音堂の内部

がお暮らしで、この川島だけは本尊が観音様というのは不思議に思えた。
お顔を較べると、阿弥陀様が笑顔に見えて「本尊は私ばい」とお声も聞こえそうな気もする。この川島集落の各家の菩提寺は神瀬の神照寺（曹洞宗）であり、このお堂の観音様がご本尊であることはうなずけ



何十年振りかで霜柱に触る

木崎考古学と遺跡 ④

田川内一号古墳

(八代市日奈久)

(木崎217～8頁)

240頁、245頁、

247頁、248頁、345～348頁、364～5頁)



木崎康弘著『肥後と球磨 その原史世界に魅せられし人々』

海抜4メートル附近にある。不知火(八代海)に近く、背後は山である。縄文時代の貝塚のうえにきずかれている。経20メートルから30メートル、高さ5メートルの円墳で、横穴式の石室である。石室は南に開口している。保存状態は良好で、腕に貝輪がはまった人骨5体、ガラス玉、剣、鉄斧、土師器、須恵器片が出土



している。

装飾古墳のひとつである。以前は、古墳内をみる事ができた。それで、今回、夏と冬、2回行ったが、熊本地震の影響のため、残念ながら現在は閉鎖されている。

明治42年、矢野寛が装飾古墳であることを発見した。装飾古墳の発見例としては県内では2番目であった。矢野は、天草の古墳を調査中に「日奈久町に蛇目の紋ある古墳ありとのことを耳になし、帰途之を調査して宮内省に報告せる」とのこと。天草の誰が矢野に装飾古墳(田川内一号古墳)の存在を教えたのであろうか。漁民だろうか。天草と八代の距離的近接性を感じる。

距離的近接性は文化的近似性とむすびつき、

「天草郡阿村(上天草市松島町阿村)の古墳と日奈久及大鼠蔵の古墳と其構造に於て酷似せるのみならず石棺に彫刻せる文様が其の形状其技巧に於て略略同一型たるの一事にして其間一種密接の關係を有し系統に於て不可離の点あるは殆ど疑なきが如き」

といえるほどに文化的に接近していた。木崎348頁は、上天草市と八代市の「環装飾古墳」という現在注目されている論点を、矢野は先取りの問題意識化していたのであった。木崎は「高島遺跡」に言及していないが、同遺跡もそれに含めていいであろう。

しかし木崎366頁によると、発見者・矢野寛の誕生年月日、経歴、その人となりについては、現時点では、確認できていない。上

〈永迫古墳〉

日奈久地域に有力な豪族がいたことは確実である。遺跡数も少なくない。とりわけ「永迫古墳」は「刻法何れも田川内石室よりも遙かに優れたる」(濱田耕作の評価)とされていて注目にあたいする。残念ながら、同古墳は、氏神附近の橋材に使用されたり井戸の側石に利用されたりして、現在は、その存在を確認できない。(木崎240頁参照)

〈大鼠蔵島遺跡・小鼠蔵島遺跡〉

江戸時代の干拓事業によって、現在は、陸づづぎになっているが、それ以前は不知火海(八代海)に浮かぶ島であった。その島に古墳が存在すること自体注目に値するが、これについては、あとで再度、検討することにする。つる詳子「陸になった島①」本誌10号59頁、同11号73頁参照



球磨川河口にある大鼠蔵島(左)と小鼠蔵島(右)

(春秋)

記のように肥後考古学に多大な貢献をした逸材であるが履歴は残っていないのである。矢野は熊本県教育会史跡調査部「県属」の肩書きで調査していることなどに注目し、木崎は矢野を「行政マン」とする(365頁)。肥後考古学の成立史を考えると矢野のような「行政マン」の存在を抜きには語れない。このことについては、これまでに、随時、指摘してきた。

くまがわすじの考古地誌

(17)

球磨川筋の弥生時代⑰

八洲開発株式会社 木崎文化財研究室長 木崎康弘

(NO.178)



写真①空から見た高原台地と夏女遺跡（赤アミ部分）

「免田式」を使おう！③ 話題騒然、夏女遺跡の発掘①

前号の『免田式』を使おう② 夏女遺跡との出会い（木崎二〇一七）の中で、「周知の埋蔵文化財包蔵地」のことに付いて、簡単に触れた。制度的には、その包蔵地が『熊本県遺跡台帳』や市町村が備えている『遺跡地図』などに記載されることで、正式の遺跡とみなされる、とした。そうはいつても、それらにすべての場所が登録されているわけではない。だからこそ、工事などの情報が寄せられると、遺跡があるかどうか、必ず現地を歩いているわけだ。現地踏査だ。

この現地踏査によって、新しい遺跡

が発見されたでしょう。その時には、例外なく試し掘りをする。それは、遺跡を地表から観察し、土器や石器などの遺物を収集しても、どの深さに埋蔵文化財が埋まっているのか、埋まった層が何枚あるのかなどが分からないからだ。また、家や墓、柱の跡などがどのくらいの広さなのかさえ分からないのである。ましてや、もっと深い層に埋蔵文化財が埋まっているかもしれない。要するに、上辺だけでは、遺跡の本当の姿が分からないのである。

そこで行うのが、本発掘の前に行う

事前の試し掘りである。

ので、行うのは確認調査だ。

この試し掘りの調査のことを、試掘・確認調査と呼ぶ。試掘調査とは、遺物などが見当たらず、拾えなくて、遺跡かどうか分からないが、可能性があるかと判断した土地で行う事前の調査。一方の確認調査とは、すでに周知の埋蔵文化財包蔵地として登録してある土地であるとか、遺跡であることは間違いないと判断できた土地であるとかの場合に、その土地で行う事前の調査だ。夏女遺跡の場合、遺跡であることは間違いない土地であった

ので、行うのは確認調査だ。遺跡であることは間違いない土地であったとの情報は、当然、文化課から農政部にもたらされた。そしてそれには、事前の試し掘り（確認調査）が必要なものも添えてあった。斯くして、一九八八（昭和六三）年度のある日、夏女遺跡に考古学者のメスが入ることとなったのである。

事前の試し掘りである。この試し掘りの調査のことを、試掘・確認調査と呼ぶ。試掘調査とは、遺物などが見当たらず、拾えなくて、遺跡かどうか分からないが、可能性があるかと判断した土地で行う事前の調査。一方の確認調査とは、すでに周知の埋蔵文化財包蔵地として登録してある土地であるとか、遺跡であることは間違いないと判断できた土地であるとかの場合に、その土地で行う事前の調査だ。夏女遺跡の場合、遺跡であることは間違いない土地であった

確認調査の担当者は、文化財保護主事の中原幸博。中原は、予定路線の中に合計二〇本の試掘坑（トレンチ）を設けた。そして、それぞれを掘削。すると、竪穴式住居跡がたくさん顔を出してきた。濃密な分布を予想できる様子に関係者は色めき立った。また、遺物の量も相当なものだったようで、約三六〇メートルの長さに亘って見つかった遺構や遺物に、私たちは、驚きを隠せなかったし、長期

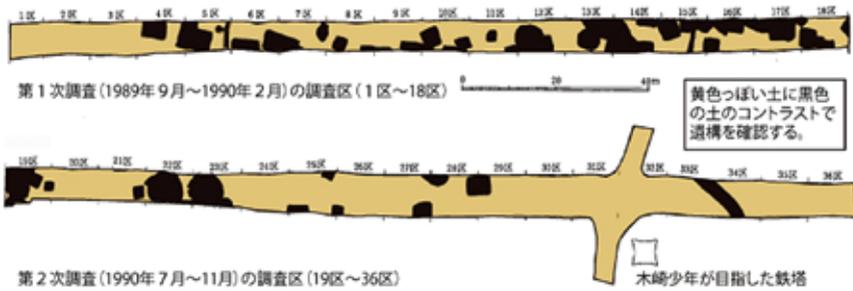


図 遺構確認のイメージ



写真②ジョレンを使った作業

【引用参考文献】
木崎康弘 二〇一七 「くまがわすじの考古地誌一六「免田式」をとおう② 夏女遺跡との出会い」『くまがわ春秋』第二三号 人吉中央出版社
園村辰実編 一九九三 『夏女遺跡』 熊本県教育委員会

そして、こうして現れた地山と遺構の境に、移植ゴテや竹ベラで以て線を引いていくと、次々と遺構の輪郭が露わになっていったのだ。広く、大きめの部分は竪穴式住居跡で、細長い部分は溝跡で小さめの部分は土坑（素掘りの穴や墓など）、まん丸で小さめの部分はピット（柱穴などの小穴）などなど。剥ぎ取られた地面には、様々な遺構が次々と顔を出してきたのだ（図）。

そこで、今回は、見つかった竪穴式住居跡など、さまざまな成果を紹介したい。（つづく）

間で、経費もかさむ、大変な発掘になりそうな予感もした。ただし、そこは考古学者たちである。それ以上にその成果に期待を寄せたのだ。特に私にとっては、木上小学校五年生の時に親しみ始めた夏女遺跡だったからこそ、想いは一人だった。

発掘は、道路の敷設ということもあり、幅七〜八メートル、長さ三六〇メートルという、細長い範囲で行われることになった。面積は、二八五〇平方メートルと、いささか狭い。普通のスピードでいけば、半年もかからない広さなのだ。ところが、夏女遺跡は違った。確認調査の結果から予想したのは、夥しい数の竪穴式住居跡が幾重にも重なり、そこに膨大な数の土器や石器が埋まっている様。しかも、調査区の狭さと長さでは、作業効率も、通常のペースではないはずだ。こ

うしたことから、長さ約三六〇メートルの範囲は、二つに分けられることになった。一つは、台地の西側より一区から二区までの約一八〇メートルで、もう一つは、一区から三六区までの約一八〇メートル。そして平成元年度は二区〜八区を、平成二年度は残りを発掘することが計画されたのだ。

ただし、その時の私の脳裏には、これほどまでの成果がもたらされるようになるうとのイメージが浮かぶことはなかった。これから訪れようとするとは、謂わば、想定外の成果だったのだ。楽しみな話のだが、それらの成果はちよつと置いておいて、まずは調査の開始から始めたい。

一九八九（平成元）年九月、いよいよ夏女遺跡に、考古学者による、本格的なメスが入れられることになっ

たのだった。発掘を担当したのは、文化財保護主事の園村辰実。

園村は、表土の剥ぎ取りと発掘面の清掃・観察から発掘を始めた。そこで行うのは、竪穴式住居跡などの遺構を見つけることだった。黄色っぽい土を地山に見立てて、黒い土の範囲を辿っていくのだ。ただし、その境を見つげるためにも、作業をお願いした地元の方々の仕事が一番大切だった。

皆さんは、ジョレンという道具を使って、土を残さないように、丁寧に地面をかき削っていた。ジョレンとは、土砂をかき寄せる時に使う道具で、長い柄の先に、竹で箕のように編んだものや、歯を付けた鉄板が装着されている。発掘で使う場合には、鉄製のものが使われる（写真②）。その作業を何回も何回も繰り返していけば、次第に遺構の形が現れてくるのだ。

川原地蔵堂をあるく

森山 学

今回は球磨川流域をはなれ、隣接する水無川流域の建物を紹介したい。水無川は、球磨川の北を球磨川と並行して流れる二級河川で、



写真① 川原地蔵堂

龍峯山と八峰山との間の山間地・旧猫谷村や、妙見中宮前、八代平野の旧日置村を経て、干拓地から八代海へ流れ出る。そのため猫谷川、

中宮川、日置川ともよばれる。この水無川を妙見中宮から上流へむかうと東町がある。ここはかつての猫谷村。妙見

信仰を伝えたと言われる百済国の皇子、琳聖太子、またはその子孫が妙見上宮の地に遷座する際、この地から登ったとき、また太子の愛猫がこの地で亡くなったとも伝えられている。

この旧猫谷村に小村、旧川原村がある。今回訪ねてみたい建物は、この集落に建つ川原地蔵堂(写真①)である。社堂としては八代市内唯一の茅葺きである。勢辨法院(せいべんぽういん)が建立した宝珠庵にはじまり、延宝年間(二六七三〜一六八〇)の改築以来、六度、再建されている。現在の建物(一八六〇)の建築である。本尊の木造地藏菩薩坐像とともに八代市指定有形文化財である。

さて川原の集落は、大きく蛇行

する水無川に抱かれたU字型の地形で、小高い山から川へと緩やかな

斜面となっている。集落へ入るには水無川を渡る唯一の橋を渡らなければいけない。五十年ほど前に木橋が流されて架け替えられたコンクリート橋で、骨材が荒々しくむき出しとなる、洗練さを欠いた仕上りの素朴な橋であるが、二連アーチにくり抜かれた丸みを帯びた一本の橋脚は、なかなか美しい風景をなす。

この橋から民家一軒分上流には、洗いが場に突き出ている。洗濯場で、今でも野菜を洗う際に使われているという。また七月の川祭りでは、ササをここに立てる。この洗いがから細い坂道を登っていけば、川原地蔵堂である。境内は斜面

を造成した広場で、この広場から山道に入れば、さらに山の神様と荒神様の石祠へと続く。山の神祭りは十二月である。この石祠への山道から見下ろす茅葺屋根もいい(写真②)。兎にも角にも、水神様から地藏菩薩、山の神様へと一本の道がないでいることになる。

写真② 山の神の石祠へ向かう山道から見下ろす

坂道を上っていくと、その正面にお堂の入口、向拝(まげ)のための正面の庇(ひさし)が見えてくる。茅葺きの寄棟造の屋根の下、向拝だけが瓦葺きである。坂道から見れば、お堂はやや斜めを向いている。縁側はこの坂道へ向く二面の壁にのみついている。おそらく境内の二辺に平行に配置され、背後に山の斜面を控え、正面に広場を形成し、南西を向くようにお堂は建てられたのだが、参



写真⑤ 堂守宅跡の石碑

松井家の三ツ笹紋が彫られている（写真④）。実は松井家はこのお堂の裏の湧水によって難産を救われたという逸話が伝わっている。このお堂は、そういった点で松井家にゆかりあるお堂でもある。お堂の裏と境内横の堂守宅跡には、川石に文字を刻んだ素朴な湧水の石碑が立てられている（写真⑤）。ちなみにこの湧水はいぼに効能があるとされて

いる。正面の建具は、本来は対の折戸であったが、いまは四枚立ての格子戸の引き分け戸になっている。さて中も拝見しよう（写真⑥）。

外陣は六畳の畳敷きで、天井は格天井



写真⑥ 外陣から内陣を見る



写真③ 境内への坂道から見る

拝者が地藏堂への期待を高めながら近づいていくのに、ふさわしい風景をつくっている（写真③）。
建物は長さにして、正面が二間

奥行きが三間である。柱は角柱で、柱の上に大斗（四角い斗の形の部材）、その上に肘木（両肘を左右に広げているような部材）をのせている。柱同士は、床の高さで切目長押、建具の上の高さに内法長押、大斗の下に頭貫と台座で緊結されている。内法長押より下が板壁と木製建具、内法長押より上は漆喰塗りの小壁である。

向拝は二本の柱の上に出三斗とよばれる組物がのる。その巻斗（肘木の上の小さな斗の形の部材）は、皿斗つきの巻斗（上下に二段重ねにしたような巻斗）である。組物の上の手挟は雲の彫物である。建物の身舎と向拝の柱をつな

ぐのは、海老のように背を丸めた梁海老虹梁である。二本の柱をつなぐ虹梁は木鼻を含めて唐草の彫物である。

虹梁の上の墓股（カエルが足を広げたような部材）には八代城主・



写真④ 向拝の墓股

記憶の落し穂

その ②

絵と文／坂本福治



写真⑦ 夜の川原地蔵堂

皆川達夫との出会い



である。碁盤の目のように仕切られた天井のひとつひとつの格間には、草花の絵が描かれている。

内陣は一段高い上段で、四枚の引違い戸が立てられ、三ツ笹紋の懸け幕がかかる。その奥にさらに一段高く仏壇が置かれる。仏壇の前柱は丸柱である。正面は格子戸で仕切られる。その中に木造地藏菩薩坐像を安置する厨子が置かれている。

お堂に奉仕するのは、十軒にも満たない集落の住民たち。交替で奉仕する。そのひとつとして、

日が暮れるころにはお堂に明かりを灯す。これがぼんやりと灯る集落の行燈のようであり（写真⑦）、まるで集落を見守る地藏菩薩の温かいお気持ちのようである。

かつて川原の子どもたちは、水無川対岸の小学校から飛石を渡って帰宅し、このお堂の広場に集合し、放課後を遊んだようだ。正月準備は、いまでもこの広場で行われており、お堂の床下にわら打ちが収納されている。

素朴な信仰や集落の暮らしとともにある地藏堂、建築とはこうありたいものである。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

昭和三十年代の新聞配達員の休日は、五月五日のこどもの日と、正月二日だけだったと記憶する。

ある年の五月五日、何の当てもなく上野公園に向かっていたら、池の岸に楽屋があって、音楽会が開かれていた。楽しい曲が多く、終わるまでそこで過ごした。終わりに「来年も是非来て下さい」と言うので、又来ることに決めた。そして一年後に行ってみると、何もなかったのである。やむなく無目的歩行。次に目に止まったのが屋外劇場。十人たらずの女性合唱団による演奏だった。

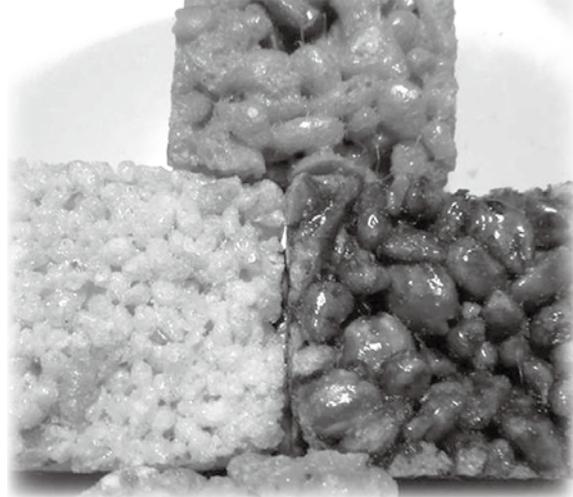
グレゴリオ聖歌ばかり。いい気分で聴いた。中年の男性指揮者が終わりに手帳を見ながら行った。「皆さんにお願いがあります。来年の四月二十一日を覚えておいて下さい」。私は中古のカメラを買ったばかりで、演奏を何枚か写した。それを送ったら、礼状が来た。皆川達夫とある。私は全く知らない人。

何と今、「音楽の泉」をNHKラジオで案内している大音楽家であった。去る十二月二十四日は、クリスマス協奏曲を紹介された。口調が変わらず。今年九十歳。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

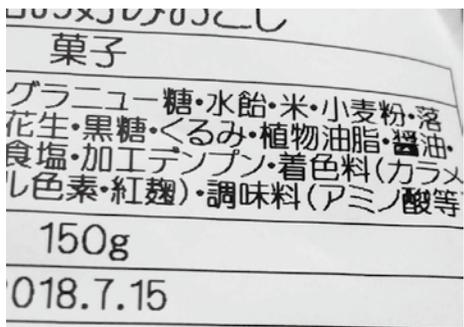
おこし(粗糀)

本誌前号で、鶴上寛治『漢和字典は面白い』は「粗糀」「おこし」を取り上げたのち、末尾で「おこし」を国語辞典で調べるように示唆された。そこで調べた。



(5) 新明解語源辞典

「粗糀」……のように、古くは「おこしこめ」といった。その下略された形が「おこし」。「おこし」の用例があらわれるのは、室町時代以降である。「おこしこめ」の語源については、「水を蒸し糀(あなぐら)に入れ糀となすを、俗に寝かすという。」



現代のおこしの原材料。国語辞典の説明は古い？

(1) 広辞苑第7版

- ① 「起し・熾し」 おこすこと。
- ② 花札で、めぐり札を開くこと。
- ③ 「粗糀・興し」 糯米で栗などを蒸した後、乾かして煎ったものを水飴と砂糖とで固めた菓子。胡麻・豆・クルミ・落花生・海苔などを加える。
- ④ 「御越し」 他人が行くこと、来ることの尊敬語。
- ⑤ 「御腰」 腰巻。腰をかけることの尊敬語。

(2) 三省堂国語辞典第7版

- ① 「粗糀」 煎った粟・米などを、水あめ入の砂糖水で固めた菓子。
- ② 「お越し」 行くこと・来ることの尊敬語。

(3) 「お腰」 こしまき

(3) 必携角川国語辞典

- ① 「お越し」「行く」「来る」ことの敬った言い方。「おいで」よりも敬意が高い。「またのお越しをおまちします」
- ② 「粗糀」もち米やアワを蒸し、いって、水あめと砂糖で固めたお菓子。

(4) 現代新国語辞典第3版

- ① 「粗糀」むした米やアワなどを、いって、水あめ入の砂糖水でかためたお菓子。
- ② 「お越し」「行く」「来る」ことの敬言。「比較」「おいで」よりも敬意が高い。さらに改まった言い方は「お運び」。

これはそれにかはりて、米を炒りてふくらますによりて、おこし米というか(嬉遊笑覧・一〇上)という。すなわり米を炒つて膨らませることを、比喩的に米を起こすと表現したものとす。粗糀は漢語。

などであった。

鶴上さんのご指摘の趣旨は、「またの『おこし』をお待ちいたします」で使用される場合の「おこし」の確認を求め、併せて「オコシ・ください」を掛け合わせる一種の駄洒落の理解する能力を問うものであったろうと推測するが、どうだろうか。

それはさておき「語源辞典」によると、①「おこし」が「起こし」に関係し、②米を膨らませて(巨きくして)つくられていたことで「粗

とつながり、そこに物語性の存在を知る。

言海は「おこし」を「興米(おこしこめ)」の略語とし、語源に近い立場をとる。大辞林第3版も同様である。広辞苑第7版が、「粗糀」とともに「興し」を併記している理由も言海をみると了解できる。「粗糀」の「糀」はどうか。平安中期に「於古之古女(オコシメ)」が「おこし」をつくらせたこと(岡田哲『たべもの起源事典 日本編』(ちくま学芸文庫))。「糀」は、それによるのではなからうか。ついでながら中国古代の農書『汜民要書』にある「油炒餅」が「おこし」の祖型で、日本には唐菓子の選餅として伝えられた「おこし」になったものである(前掲岡田『起源』)。(春秋)

小山勝清ノート①

西郷魚

『在る村の近世史』に次の話がある。

「十年戦争（西南戦争）」のときに川（川辺川）に「西郷魚」がやってきた話だ。「ハバに似た魚」と勝清は説明している。原著を読んだとき、いったい何だろうかと思っただが、ハバは相良村の言葉でないようだ。『相良村誌資料編二注40』は「ハゼ」の誤植だろうかとしたうえで、ハゼは昭和24年水害以降みられなくなったとする。ハゼだとしても、「ハバに似た魚」であるから、ハゼそのものではなかったであろう。また「西郷魚」はどう読むのだろう。「セイゴ・イオ」か「セゴ・ウオ」、「サイゴ・イオ」か。

勝清は記している。

西郷魚を愛する老人がいた。清一爺さんである。「世

の中に、これほどうまい魚はあるまい」といった。この魚をとるのも上手かった。この魚がいたので、金がなくても焼酎にありつけた。清一爺さんは、あらゆる機会にこの魚を宣伝した。

爺さんは西南戦争の役に、賊軍に徴集されて弾丸運びをやった。酔いがまわると、そのときの様子を、身振り手振りを交えて、唄った。いつもきまってる、

「ドツイコ来た

ソーライ豆

ドツイコ来た

ソーライ豆

と、うまく唄った。ソーライ豆は「蓬莱豆」のこと。官軍の軍夫をそうよんだ。爺さんは薩摩軍であったが、薩摩でもそのように呼ばれていたようだ。

西南戦争の影響は、相良村では、このように「西郷魚」「ソーライ豆」として残った。清一爺さんは、部落と部落の間のつき合い酒の席で唄った。部落間の宴会である

ため。礼儀正しさ、いかに多くの酒を飲めるか、いかに上手に踊りをおどれるか、話せるか、唄えるか、が大切であった。酒席用の器に重要であった。領主の圧力で逼迫していても、どの部落もこうしたことには力を入れた。それは農民自身がつくりあげたひとつの形（文化）であった。

勝清は上記のようであるが、その原因を明確には語っていない。
(春秋)

エンブリー・ノート②

須恵村の階層構造

エンブリーは、須恵村の村落構造を共同体的に把握したのに対して、ルース・ベネディクト『菊と刀』は日本社会を階層序列的・秩序的に把握している点で対照的で、前者が適切なアプローチであるとの指摘がある。「共同体的」というとき、「コミュニティ」ないし「人は社会

的動物である」というときの「社会」を指し、マルクス主義のいう「共同体」の意味ではない。コミュニティの意味での「共同体」とマルクス主義の「共同体」は意味がちがう。マルクス主義は資本主義社会以前の社会構造の分析用語として「共同体」を使う。（平岡優平「共同体」本誌16号76頁以下、参照）

『菊と刀』を概観するとき、ベネディクトが階層構造・秩序を強調していることは確かだ、その点に、分析上の不十分性を残しているが、同時に、階層構造・秩序論をぬきに戦前日本の社会を把握できないことも明白である。エンブリーもそれを自覚し、須恵村の社会構造を6

階級で構成されているとする(『須恵村』149頁以下)。

1、最上級

村長、校長、旧家の人びと、地主、武士の子孫(1人で、かつ、地主ではない)。村会議員の大多数。村全体の指導者。

養蚕を営み、三人ほどの奉公人を雇い、2頭以上の馬をもつ。学校の行事には上席に座り、家を訪ねると正客としての扱いを受ける。その子弟は通例、村から離れて上級の学校に進学している。

★以上は須恵村では最上流階級に属するが、附近の町では中位の上流階級に当たる。



『日本の村 須恵村』
ジョン・F・エンブリー
日本経済評論社(1978年)

2、上流階級

部落の区長、若干の村会議員。村全体ではなく、部落の指導者。養蚕を営み、二、三人の作男を雇い、一、二頭の牛や馬をもつ。全員、土地所有者である。学校の行事で必ずしも上座を与えられないが、つねに歓迎される。その子弟を上級の学校に進学させている者もいる。

3、上層中流階級

店屋の大部分、部落の区長の一部、村会議員はいない。

妻は養蚕を営み、商売をしている。小地主であるが、いくらかを小作している。作男が必要なときには一人雇う。



馬・牛は重要な財産で、エンブリーはその所有の有無を階層序列を考えるときの基準にした

4、下層中流階級

零細店屋、豆腐屋。養蚕を行っている(山間部の部落を除く)。小土地所有者と小作人の両方がいる。雇い人はいない。子どもは奉公人になって出稼ぎにでかける。

5、下流階級

部落の共同の行事には参加できるが、婦人の講のような社会的行事には参加できない。子弟は、ときに、雇い人として出稼ぎする。土地はほとんどもたない。地元生まれではない。

「働き者の娘」

娘が働き者であるときには、自分の家より社会的に身分の高い家の嫁に選ばれる傾向が強まっている、とエンブリーはいう。農村社会における女子労働の重要性を指摘する内容で、注目にあたいます。

「敬語」

小山勝清『在る村の近世史』を読むと、下層階級は上層階級に敬語を使っている。旧坂本村でも同様であった。

「武士の子孫」

階級は経済と密接な関係がある。武士の子孫は村の行事では上席に座ることになっているが、日常生活は寛井部落の中流階級の人たちとほとんど変わらない。以前には、裕福であったが、財産を浪費したことによる。彼は、息子をもたず、孫娘に養子をむかえるが、その養子は最上級からとは限らない。エンブリーはそれを「至極当然」とする。ついでながらエンブリーは、足軽は武士に含めていない。

6、最下流社会

部落のどの行事にも参加できない。臨時労働で出稼ぎし、子どもは雇い人になって村をでる。須恵村の生まれではなく、須恵村に土地をもたない。

『須恵村』、『須恵村の女たち』を読むとき、以上の「階層分化論」は当然の前提になる。たとえば、結婚についてエンブリーが、「結婚はその社会階級のなかで組み合わせられる。上流のものは花嫁を上流階級から、中流のものは中流の家庭から迎える」という場合がそうである。

(春秋)

北御門二郎訳でトルストイを読む②

カフカーズの捕虜

喜多岡 洋

カフカーズ。日本人に慣れた発音でいえばコーカサス地方。その地は帝政ロシアが半ばを支配していたが、回教徒のタタール人もその半ばを実質的に支配していた。この物語は帝国ロシアとタタール人との戦いのなかで捕虜になった兵士の物語である。

兵士は軍隊をやめて母のいる故里に戻る途中で捕虜になった。タタール人は男を殺さなかった。奴隷にもしなかった。身代金を獲得するために捕虜にした。男を殺すべきだという者もいた。タタール人の長老がそうであった。彼の息子たちはロシア軍に殺されていた。7人の息子を失い、捕虜になった1人の息子は長老自身の手で殺したのであった。男が捕縛されているとき、兵士を最初に捕まえたタタール人の兄弟が殺害されるという事件がおき

に印象に残った。純真な子どもの姿が活写されている。タタール人の13歳の娘がロシアの貨幣を首かざりにし、おさげも貨幣で結っている様子は、『イワンの馬鹿』の「玩具」としての貨幣を彷彿させる。

記者は、『戦争と平和』と『アンナ・カレーニナ』の中間の作品で、ささやかながらも、民族を超え、年齢を超え、性を超えての人間愛が語れているとするが、これにつきる要約はない。トルストイはおそらくはキリスト

オリエント急行殺人事件

久馬 俊

観たい映画。安倍晋三首相も元日にこの映画をみている。よりによって安倍首相に不覚にも先を越されたのであった。不覚を恥じて先を越された傷を癒すために原作を読むことにした。原作といつても原文でなく翻訳である。自慢するわけではないが、原文を読む力は僕にはない。

た。タタール人たちは3日にわたり喪に服した。帝政ロシアとタタール人がなぜ戦うことになったのか、トルストイはその原因を語らない。その理由を述べなくても、戦争が双方に犠牲者をつくりだす事実にはちがいはない。

「戦い（戦争）」は犠牲者をどうしても生み出すのだ。

トルストイはタタール人を蔑視せず、戦争さえなければ、彼らがよき隣人であること、それと幾分矛盾するが、彼らが異民族のノガイ人たちに支配していることも併せて描く。さらにロシア軍のなかに味方を助けず逃げ出してしまう兵士が現実には存在する事実にも触れている。個人的にはタタール人の子どもの姿を描いた場面が特



※カフカーズの捕虜（とりこ）は、北御門次郎『トルストイ短編集』（人吉中央出版社）所収（1872年作1085年9月9日北御門訳）

教徒であろう。しかし、本作品には回教徒に対する偏見は一切ない。

昨年は、ロシア革命100年であった。タタール人ノガル人がその後どのような運命を辿ったのかをいま調べている。本作は空想の世界を描いたものでなく、当時の現実をえぐりとったもので、現在につながっているからである。

【きたおか・ひろし／八代市】

安倍首相もたぶんそうであろう。もちろん、それは僕の推測にとどまる。外見で語学力のあるなしが分かるはずなどないけれども、河野外務大臣とちがひ、安倍首相が外国語が得意だという噂を聞いたことがないので、たぶんそうだろう。もし得意なら、産経新聞が黙っているはずがない。そのあたりの事情はゴルフ友達のトランプ大統領も知っているだろう。

ところで映画以上に原作は有名。安倍首相もきつと読んでいる。安倍首相としては原作を読んだうえで出演者の演技をみたかったのであろう。多くの人もそうである

漢和字典は面白い

6
鶴上寛治

う。あの映画は粗筋に魅力があるのではなく、粗筋を知ったうえで役者がどのように演技するのかにみどころがある。原作と映画は別だとよく指摘される。しかし、「オリエント急行殺人事件」のような推理小説の場合、粗筋を大幅に変更するわけにはいかない。推理小説はトリックに魅力がある。それを変えることはできない。原作は殺人事件、映画は窃盗事件にはできない。オリエント急行の事件を肥薩線の事件にはできない。殺人者は原作ではA、映画ではBにするわけにもいかない。

時間をかけて読んだ。以前とは読むスピードが衰えている。結局、1週間ほどかけて読み終えた。粗筋だけを知っていて、小説としても魅力的であることをすっかり忘れていて、楽しく、読めた。小説には言の葉がつくりだす魅力がやどつている。

主人公はエルキュール・ポアロ。彼は推理小説の世界の有名人で、ポアロ関係の作品は30作を超えるらしい。「オリエント急行殺人事件」はそのひとつだ。1934年（昭和9年）に発表された。エンブリー夫妻が須恵村を調査しはじめた前年にあたる。ドイツではヒットラー、

イタリアではムッソリーニの支配体制が確立していた。日本は満州国をうちあげていた。そういう時期に、作者・アガサ・クリステイーはこの小説を書いたのである。そういう時代状況を視野にいれて読むと想像以上に奥の深い作品であることを知った。途中から地図と年表を手元において読みすすめた。イギリス人をはじめフランス人、イタリア人、ロシア人、アメリカ人などの気質のちがいの描写などみどころ満載であった。

80年以上前の作品だが、もし仮に、同様の事件が現在の日本で発生したら、日本の警察はポアロ以上に事件を把握できるであろうか、ポアロ的解決は可能なのか、ポアロ的捜査は適切なのかなどを想像してみた。安倍首相もきつと同じことを考えたであろう。そのあたりのことについて安倍さんと豪華観光列車「ななつ星」の食堂車でワインをのみながら話したいのだが、残念ながら、「ななつ星」に乗車するだけのお金が僕にはない。

【きゅうま・すぐる／八代市】



王様の奥さまはすべて妃ではなく、皇后・貴妃・夫人等々幾段階もあつたらしい。後宮に召されはしたものの、死ぬまで一度も声のかからなかった女性もいたのでは？ ああ、もったいない。企業でも、優秀な人材を集めて研究・開発を行わせ、成果が上がらなくても一生飼育殺しにして、他社にその人材が流出しないようにする、なんてことに似ていますか。



この絵文字はエッチな子供の落書きではなく、殷時代の青銅器に占いのために刻まれた、れつきとした漢字の原型＝金文の「心」という字。何かの形にあまりにもよく似ているが、これは《人間の心臓の象形》。自分の心臓を見たことはないが、古代中国人は《心の目》でちゃんと見ていたということ(まさか生体解剖?)。漢和辞典の【心部】には沢山の漢字が並んでいる。



音読みはバイ、正字は「賣」。だから部首は【貝部】にすべきか、それとも、この略字体が常用漢字になっているので、【土部】にすべきか？ それは学者先生にお任せするとして、我が家の漢和辞典では【土部】にしてある。意地悪心で「買」の方を見た。そう、ちゃんと【貝部】——それでいいのか？ 古文書には買券(買ったことの証明書)もあれば、売券(売ったことの証明書)もある。ある学者は研究発表の席で、これを Sell 券・buy 券とよんでいた。買春をカイシュンと読むのは無理、多分彼は改悛も悔悛もしていないだろうから。

【つるかみ・かんじ／人吉市】



上杉芳野の「あがつ段」②1

親子交通安全教室



清水保育園の子どもたちと



皇太子ご夫妻訪問で話題になった「滑り台」

ここ、清水^{きよみず}保育園は球磨郡あさぎり町(旧上村)にある。昭和28年4月1日に設立され、職員数18名、園児数75名にて運営されている。この保育園が話題になったのは昭和37年5月11日、天皇陛下がまだ皇太子の頃に美智子妃殿下と一緒にこの保育園を訪問さ

れ、滑り台の上にお立ちなられたからである。お二人は結婚されたばかりの頃で、浩宮様も小さい赤ちゃんだった様に思う。自分の子供を東京に置いて来られ、この園児たちを我が子を見る様な温かい目差しで子ども達と同じ目線になり、話されていたのを思い出す。私は小学校4年生だった。

記念として残されている「滑り台」を見ると、今もあの時の事を思い出す。その時美智子ちゃんという子が友達と一緒に滑り台に登って行き、そのお母さんがビックリして「美智子降

りらんかアー」と言われ、周りの人達がハラハラしたのであった。その子も一緒に来ていた大勢の人達にニコニコしながら手を振り笑いを誘ったのである。

お二人がお帰りになられる時に、「また来ないな」と言った事も、その頃の新聞に大きく取り上げられたのである。

そういう保育園に「親子交通安全教室」の講師依頼があり行つて来た。昨年もお声が掛かり、ありがたく思っていたのに今年もお声を掛けて頂いた。

実は私は以前、事故を起こした事があり、私の様

な者が講師なんて引き受けるのはとんでもない事だと思つた。

でも、私は思つた。

「事故で人を殺したり人を傷つけてしまったら、どぎやんすんね。お母さんには遠い所に運転して行く仕事は無理。絶対辞めて！」

と娘がいうので、今の仕事を辞めたのだつた。

春と秋の交通安全週間の時も警察署からの依頼で、ばつてんジョージさんと須恵文化ホールで寸劇もした。

交通安全には本当に心から解つているつもりなのに事故故というのは、いつどんな形で起こるか解らない。

事故の相手の人に申しわけなさと1日でも早く元通りの元気になってほしいと



毎日毎日お参りしている。

事故を起こした人も事故に遭つた人も、本当に心苦しいのだ。それが充分解つているから、私みたいな者を出さないためにも、自分の思いも込めてみんなに伝えようと思つた。

私は赤と白のセーラー服とズボンの下にピンクのフリルを付けた服に、あさぎり町の旗を持ち、白の手袋と赤のベレー帽、赤い上靴を履いて登場した。

会場のざわめきの中、演台に立った私は「清水保育園の良い子のお友達、おはようございます。私、あさ

ぎり町のバスガール、上杉

食べ過ぎ太り過ぎ下腹出る子です！」と挨拶すると親子さんの間で笑いが起こつた。この笑い声を聞いたところで、信号のシールや交通標識や色んなものを黒板に貼り付けながら進めていった。おもしろおかしくやっている内に園児たちの緊張感もほぐれ、手を上げたり大きい声で答えてくれた。来年から1年生になる子供達やお父さん、お母さん達が事故のない毎日であります様にと願いながら子供達の明るいパワーに、こちらの方が感謝である。

【うえずぎ・よしの／ボランティア観光バスガール、あさぎり町上】

爺民革新党を国政に

前田一洋



子供の頃はそれこそ、♪早く来い
来いと待っていた正月なのに、「いつ
まででつちや来んばよか」とか、「お
いぎやへんな正月どま二年か三年に
一遍でよかばい」などと思う人が
年々増えてきている。超高齢化社
会が、目に見えるようになってきた
証拠でしょう。

だれしも歳取れば、目はかすみ
耳は遠くなる。さらには全身のチョ
ウツガイが、みんなサビくれてし
まって、「せーの、よいしょどっこ
いしょー」の掛け声ぐらいいは、いっ

ちよん、言うこと、をきいてはくれ
ません。

そのうえ唯一の楽しみであり、頼
みの綱でもあった年金、これがかつ
としゅうつ下がる一方。逆に、医
療費や介護保険料などは、まるで
血圧の応援団みたいに二ヨロ昇りに
上がるばかり。「まいきやにや旅行
どもして」「月に一ぺんか二ん度温
泉になつと浸かつきや行かるるばい」
の夢も、マボロシでした。

と、ここまででは当然なことながら
誰しものが抱く嘆きです。無理もあ

りません、戦後は金の卵だとか企
業戦士などとオダてられ、それこそ
死に物狂いで働いてきた人々、しか
も、団塊の世代であったがために、
学校に通う時分から「すし詰め教
室」で競争から競争。終には地獄
に入るのにも、順番待ちですとか。
そこで思いっきり大声で泣いたり、
「おどまこん先やどぎやしなつとオ
」「わいとま年寄つよば、干し殺すつ
もつや」「若つか時から欲しかもん
も買わじん、辛抱に辛抱してがまん
出やてきたとぞ」などと言って、声
を限りにワめくのもいいでしょう。
少しは気分が軽くなるって、GBに
行く元気が出るかも。

ところが世間では、そうした泣き
やワメき声を聞いて、「年寄いもキ
ツかたい」とか、「どぎやかしてや

らずうば」などと思うでしょうか。
なんのなんの、それどころか、「ド
モきつかやさいたとばい」「昔から
焼酎飲めば泣き上戸じゃったで、あ
の爺どんな」と言われるのがオチ、
何の進歩にもなりません。かえって
嫌われバカにされるばかりですよ。

それでは一体どうするか、どうし
たらその悩みや苦しみを国に伝え、
さらに改善が計られるか。なんのこ
とはありません、政党を作るのです
よ政治結社を。高齢者の高齢者に
よる高齢者のための政党を作るので
す。名称は「爺民革新党」「立憲紅
葉党」などと色々あるでしょうが、
国会に打って出るのですよ。

チマタで、いくらワめきちらして
いても、誰ひとり助けてはくれませ
ん。しかし国会に代表を送り正々



堂々とその意見を述べれば、国民の
声として無視したりせせら嗤ったり
はできません。しかも国内の高齢者
は3514万人、実に国民の3割
近くもいるんですよ。

そこから候補者を立てれば、た
ちどころに第一党間違いない。しか
も豊富な人生経験、そして磨き上

げられた人格から発せられる堂々
たる意見。それは見事と言うほか
ありません。別に高齢者の我が侬
を言うのではなくて、日本の老若男
女が住み良い社会への知恵と、意見
を述べてくれる人を選出するのです
よ。

国の祝日として、たしかに「敬老
の日」はあります。しかし敬うよう
な「ふう」をするのはその日だけ。
他は年から年中「敬老の日」で
はありませんか。さらに高齢化が
進めば進むほど、その政策はキビ
しさを増してくるばかり。それを防
ぐために是非国会へと、「爺民革新
党」「立憲紅葉党」の代表を送ろう
ではありませんか。次なる国政選
挙から。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

新・日曜釣り師心得⑤

ギヤルとオバタリアン

宮原赤竿

土曜日の夜9時過ぎに鹿児島県いちき串木野市内にいた。明日の早朝に瀬渡し船に乗り込むのが午前3時なのであと6時間もあるのだ。

いつもこの港から船に乗る前にはあるお店に行く。美人ギヤル（20代後半）がカウンターにいてニコニコ笑顔。もう一人の少し年上の美人（30代後半）が、店の奥で料理を



作ってくれるのだ。だからいつもお店は超満席。いつもは釣りの同行者がいるのだが今日は私一人で来た。お店のギヤルからのモテ度は一人だからグーンとアップして、愛情料理を食べて芋焼酎をがんぶり飲んで代行を呼んで港へ。グガ〜と車で寝る。あつという間に夢の中。出港の時間がやってきた。瀬渡し船の船長さんに挨拶して一番奥の船底に寝た。船が甌島の沖に近づき瀬渡ししの準備が始まる。若い釣り人が沖の荒磯に降りていき、私は後の方だ。

「赤竿^{せつかん}さん用意して」と船長のマイクの声に船の前に進んで荷物を確認する。

船は暗闇の中にスポットライトを照らしつつきりと岩場が見えて来た。松島のヘタのママコだ。甌島里でも激流の場所。船が遠ざかると真つ暗な岩の上である。

「甌島、荷物を降ろして独りぼっち」。山頭火が磯釣り師ならこの句を詠んだか。

お湯を沸かしてラーメンをフーフしながら腹ごしらえ。釣りの準備より大切な時間なのだ。そこまでは良かった。

そこで不思議なことが起こった。「恨みっこなしで別れましようね〜」と梓みちよの歌が口から出て頭

から離れないのだ。「さらり〜と水に全て流して〜♪」。また歌った。

そうか数週間前に人吉のスナックでオバタリアンが歌った曲がインプットされたのか。困ったぞ。

マキエサを作つて暗闇の海面へポンポンと飛ばして魚の食い気を出す。「こうなったのもお互いのせい〜♪」。

少し明るくなった。7時から釣り開始である。「心配しないで独りつきりは〜子供の頃から馴れているのよ〜♪」。

右から冷たい強風が吹き付ける。辛抱〜辛抱だ。

さて、始めるか!

第1投、来た! ブツ!

第2投、来た! ブツ!

ブツブツ言っているのではない。ハ

リス(釣りの糸)が飛ばされて切れるのだ。

「それでもたまに〜淋しくなったら〜一人でお酒を飲みましようねえ〜♪」。又、歌っている。

魚たちは釣り人の腕前を知つて喰つてくるのだ。

すこし休憩をとる。

防寒服の社会の窓に手を突っ込み、1枚、2枚、3枚、4枚で、やつとブリーフ。そこでお宝をつまみ出して腰の前に突き出して、小便小僧なみの勢いはないけれど、オシッコタイムが釣り人の休憩時間なんである。

「あなたと私は似たもの同士〜欠点ばかりが目立つ二人よ〜♪」と、曲を詳しく覚えていたのだ。

三度目の正直で魚を掛けてバン



向こうは鹿児島県上こしき島里町。ここは松島の磯

ザイと両手を挙げて竿を天に突き出して魚の突進を止める。テレビやユーチューブで見る釣り名人の突きばきではない。ゴテゴテな魚どのやりとりなのだ。

何とか、1枚、2枚と釣り上げていく。

魚は「グレ(クロ)」。

目がクルルとして、まるで可愛いギャルなのである。

ただ、その愛らしい目の直ぐ上をナイフでやるのだ。

「なんまんだぶつ」と言いながら目の上をナイフで刺す。「なんまんだ」、「さざり〜と水に全て流して〜」を歌いながら。

お昼を過ぎる頃にはクーラーも満タンになり帰る準備。一度メタ魚をもう一度清い海水で洗ってあげた。

「どうにかなるでしょう、この街のどこかで私は生きて行くのよ〜」

独りの磯でオバタリアンが仕組んだ「二人でお酒を」の歌を何百回も歌った。

「それでもたまに〜淋しくなったら〜一人でお酒を飲みましようねえ〜」が又もや出た。

堪忍してくれ〜！
オバタリアンの祟りか。

【みやはら・せつかん／
熊本飛翔会会長、人吉市】



釣り上げてすぐはコバルト色のグレ(クロ)。お目々は可愛いギャルのよう

せきれい 鶴鶴短歌会

一月詠草

偲ぶ夜に人の命の儚さよ昨日の笑顔想へば哀し
去る年の晦日迎へてふり返りあした待ちつつ除夜の鐘きく

守永 和久

歳の瀬の河原にカラスと白鷺は静かに並び基石のごとく
日向なる初日の中の青き島海積の神静かにいませり

河内 徹夫

あらたまの年の始めに願ふなりからだの無事と輝き少し
歌友の通夜におかれた遺影見つ彼の一首が脳裏をかすむ
中村美喜子

登校時声掛けあった小学生手紙を吾に嬉しき便り
酉齢の夫は酉で去つて逝く渡り鳥なら又逢えるのに

釜田 操

霧深く事故がないこと心に念じ職場についてほつと一息
八十歳長くぞ勤めた我ながら感謝しながら職場と別る

中原 康子

遠き日の戦後の事を思い出しふな焼き焼けどあの味だせず
葛藤の中で戦ふ人もあり静かな暮らし好む人あり

緒方 保正

緒方君は昨年十二月、突然に帰らぬ人となりました。
彼はユニークな歌を作り、仲間を良く笑わせてくれました。
た。同好の友として、また同期生として残念でなりません。
心からご冥福をお祈りします。

年賀状傘寿までと思いつつ便り届くと誓いがにぶる
蠟梅の枝に積もりしばたん雪風に吹かれて香りも乗せて

三原 光代

友が逝き早きを嘆く吾なれど「無常」説きたる仏陀に明りを
歳の瀬の陽だまりに憩ふ水鳥は来る春の飛翔待つが如くに

橋詰 了一

二日前言葉交はした友の死は波の碎ける如く胸打つ
「無常」とふ言葉普段に使へども突なる友の死「無常」が辛し

堀田 英雄

山に行こうよ!

その⑩

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

切り立った崖の隙間にまるでク
の所にあるのが「心見の橋」。
でも知らぬ男性に集合写真を写し
も知らぬ男性に集合写真を写し
した後、居合わせた心優しい名
の山に来たぞう証拠の写真を写
三角点にタッチ。思い思いにこ
11時30分、登頂。着いた。

場に着いた。3メートルほどの
岩にロープが渡してある。
せめてこれくらいの岩場が5
か所くらいあると楽しめると思
える。なかなか晴れない、時に
空が明るくなると晴れてくれな
いかなと見上げるが、やはり空
は雲が重い。初めは、せめて雨
でなければ良いと思つた殊勝な
思いは消えて段々と本性の欲が
出てきた。



市房山山頂にて

感動の時間を共有していただ
いた皆様ありがとうございます。
お礼を申し上げます。
15時15分、人吉着。車を出
14時20分、帰路発。
14時10分、登山口着。
12時20分、下山開始。麓近
くになってやっと快晴

難(?)を乗り越えて登つて来
た達成感も今一と思つたが、12
人の仲間が誰も怪我無くこの
1722mに立つことができ
た。中でもしばらく山を休んで
いた仲間がまた元気に戻って参
加してくれた。今回はその人の
為にも最適の山だった。良かつ
たバンザイ。

【笠原洋子】

市房山

標高 1722m (宮崎県 熊本県)

2017年12月3日(日)

天候:曇り

参加者:12名

霧の中で感動の時間を共有

市房山は宮崎県と熊本県に
またがる米良三山の一つで、水
上村湯山の市房神社をいただく
信仰の山である。標高は九重連
山、祖母山、国見岳とほとん
ど変わらず1722m、日本
二百名山の一つだそう。登山
口は水上村と西米良村から可
能だが、今回は比較的容易な
西米良登山道。それも5合目



霧の中を歩く

の駐車場を
素通りして
更に林道を
ひた走り、
7合目近く
の作業小屋

横に駐車しての登山となった。
7時00分、指定駐車場に集
合。人吉組9人に加えて、えび
の組三人娘(?)と合流、総勢
12人である。三台の乗用車に分
乗しての出発となった。
早朝わずかに小雨が降つたら
しく道路は濡れているが、木立
ちの下はまだ乾いている。霧が
濃くこのまませめて降らなけれ
ばいいと念じての出発である。
8時45分、登山口に到着。
林道から作業道に入つてしぼら
くすると見慣れた作業小屋に着
いた。駐車スペースは少ない。
小屋には律儀に男女別々にトイ

レが作られている。避難小屋も
兼ねているらしい。
晴れてくれないかなと見上げ
る空はまだ暗い。風もなく濃い
霧の中に杉が寡黙に突っ立って
いた。この静寂の森にたった一人
で入る勇気はないと思わせる静
寂な空間だ。
9時05分、登山開始。まず
は心地よい登山道だ。杉と松
とモミジの落ち葉でふつかふか
のまるで高級絨毯だ。これは良
いと膝にやさしい登山道に喜ん
だ。更に今朝の雨もやはり山は
かなり降つたらしいが、落葉の
お蔭で滑らない。しばらくは平
たんな登りが続いた。8合目と
9合目で休憩を取り、2時間近
く登るとやっと見覚えのある岩

夏目友人帳のふるさと巡り②

今年2018年には初の劇場版が公開される予定のアニメ、「夏目友人帳」の舞台となった「聖地」を紹介していく。

瀬戸石駅

(八代市坂本町瀬戸石)

主人公たちが乗る列車や駅のモデルとなっているのは「JR肥薩線」と「くま川鉄道」の二つだが、山深いところにある肥薩線の「瀬戸石駅」は、いかにも怪が出てそうな駅の一つ。

アニメの中の瀬戸石駅
(© 緑川ゆき・白泉社 / 「夏目友人帳」製作委員会)

同駅は旧鹿児島本線開通の翌年、明治43年(1910)6月25日の開業、昭和62年12月に駅舎は撤去され、その後は駐車場となっている(本誌第5号、松本晋一「球磨川の駅・ものがたり⑤瀬戸石駅」参照)。



待合室



雨宮神社

(球磨郡相良村川辺雨宮鶴)



創建不詳、永享年中(1429~1440)再興。祭神は「船玉神」「天之水分神」「国立水分神」「久比邪持神」「高於加美神」の5つ

第4期のオープニングに登場している雨宮神社は、高さ約35mの加久藤熔結凝灰岩の丘の上にあり、南側にある112段の石段を登ると神社に至る。

雨乞いのご利益があるとして信仰を集める神社で、この言い伝えは1期2話に出てきた「露神様」のモデルではないかとも言われている。堂内には



別名「トトロの森」と呼ばれている丘



三産ぐり

探訪ノートが置いてあり、全国各地から訪れたファンの熱い思いが綴られている。

また、相良31代長寛公が、この「三産ぐり」を通つたら嫡男に恵まれたと言いつた伝説があり、「子宝運」のご利益があるとも言われている。



第4期のオープニングで、小学生の頃の夏目が佇んでいた神社はここがモデル。(© 緑川ゆき・白泉社 / 「夏目友人帳」製作委員会)

堂内にあるノートには、全国各地から訪れたファンの熱い思いが綴られている



陸に上がった帝国海軍と私

瀬戸致行

私は昭和20年4月、大東亜戦争末期の頃、鹿児島市山下町に父の仕事の關係で熊本市から移転して来ていました。4月6日(多分)、鹿児島市へのアメリカ海軍艦載機(グラマン)の初空襲に遭い、早々に母の実家の球磨郡渡村へ父母と兄弟三人が疎開して来て、私は渡国民学校の5年生に編入しました。その頃渡村の集会場(名称はハッキリしない)を白い夏服の日本帝国海軍30人程が宿舎としていました。

何故、海軍が陸地に居たのか私には永年、疑問でしたが、昭和27年8月13日の人吉新聞に、現在相良村柳瀬在住の椎屋孝雄さん(当時10歳くらい)が、球

ものでした。敗戦になると海軍の兵隊さん達は何時の間にか居なくなりました。

しかし、渡村に遊びに行った時、先に来ていた上級下士官が背広姿で訪ねて来ているのに会いました。後で聞いた話では、彼が思いを寄せていた女性との結婚を考えての訪問だったらしいのですが、結果は不成功だったようです。

結局、敗戦間近かの日本海軍は乗船する軍艦が殆ど沈められ、乗る船もなく陸に上がって、陸軍になったのでした。

戦災を経験した私は孫たちの為にも、戦争は御免です。アジア太平洋戦争の惨禍を生んだことに対する反省からできた、戦争はしない、戦力はもたない、国に戦争をさせないという、日本国憲法のありかたそのものをかえてしまう改憲に絶対反対です。

【せと・ちゅう／元産科医、人吉市】

磨村渡舟戸の実家敷地内に高射砲2基が設置され、すぐ目の前にある肥薩線の球磨川に架かる鉄橋の死守に当たっていたと記されていきました。私は直ぐ近くに住んでいたのに、この高射砲のことが判らなかつたのは軍事機密の為だったのでしよう。

ひどい食糧難の時代でしたが、この集会場の窓から中を覗いて見ると、兵隊さんたちは白米を食べていました。食事前の準備や寝る布団の準備などが号令一で行われ、少々年配の兵隊さん達が若い上官に叱られる時にはビンタを喰いながら作業していました。

広島、長崎に風船爆弾(原子爆弾)が落とされ、その威力が報道されると、叔父の家のコンクリートの部屋を防空壕として利用することをこの兵隊さんに頼み、終わったらお座敷で焼酎が振舞われました。

当時、下士官さんと親しくなつて、乾パン(海軍のは陸軍のより大型で)を貰って食べるととても美味しい

北御門 二郎・訳 トルストイ短編集



新たに編集された「カフカーズの捕虜」「神は真実を見そなわす」「舞踏会の後」「壺のアリョーシャ」「贗造クーポン」の5本を収録

レフ・トルストイ／作
北御門 二郎／訳
表紙絵／田口宏昭
北御門すすぐ・たえ子／編

■A5判／並製本／192頁
■定価 1,500円(+税)
送料 100円

帝政ロシア時代の物語を
北御門二郎の「心訳」で贈る
現代人へのメッセージ

直販の
申込は

〒868-0015 熊本県下城本町 1436-4 の3号
TEL・FAX0966-23-3759 info@hitoyoshi.co.jp

人吉中央出版社

倉敷便り

⑭

絵と文／原田正史

人吉城内の地下室遺構

昨年十二月末、これまで私の研究分野に全く無関心だった娘から、人吉城内にある地下室遺構に類似した遺構がスペインのカタルーニヤ地方に位置するジローナのユダヤ教博物館 (Museu d'Historia dels Jueus) 内で展示されていることを教えてくれました。「ミクヴェ (Mikveh = 身を清める池)」と呼ばれるその遺構は、人吉城地下室遺構と瓜二つ言えるほど類似した構造でした。人吉在住の頃から「私

下ではなく、地上に造られていることとです」と、話されたのを、案内の人が聞いているのです。残念なことに、その人の名前も住所も不明なのです。トルコ大使館へも手紙を出しましたが、返事は来ませんでした。このことから理解されることは、ミクヴェの存在はスペインとかトルコといった特定の国に限定されたものではなく、中東からヨーロッパにかけて広い地域に認められるものではないということです。このことは、人吉城地下室遺構の存在に強い関心を持つ人が多く存在する可能性が極めて高いという点で重要です。人吉城地下室遺構がミクヴェと同一構造である理由については、地元人吉の伝承と熊本県宇城市の古文書によって明らかにすることが可

たちは人吉城の地下室遺構を造った相良清兵衛に護られているのに違いない」と言う私の発言を聞いていた娘は、実際に地下室遺構を見、俄に興味が高まり、出版時に送っていた拙著「驚愕の九州相良隠れキリシタン」を取り出し、初めて完読したということです。これによって相良隠れキリシタンについての理解を深めると共に、その存在が多数の裏付けによって立証されていることを把握したようです。そして、このような私の見解が地元において無視され続けている事を知った娘は、父親の積年の無念を晴らすべく、イン

能です。

相良清兵衛は、かねてより親交のあったキリシタン大名小西行長の居城である宇土市の宇土城を足繁く訪れており、行長を通して設計図を入手した可能性があるのです。言うまでもなく、相良清兵衛が自分で造り上げた構造物をユダヤ教のものとするはずもなく、キリスト教の構造物として使用したに違いないと言えます。

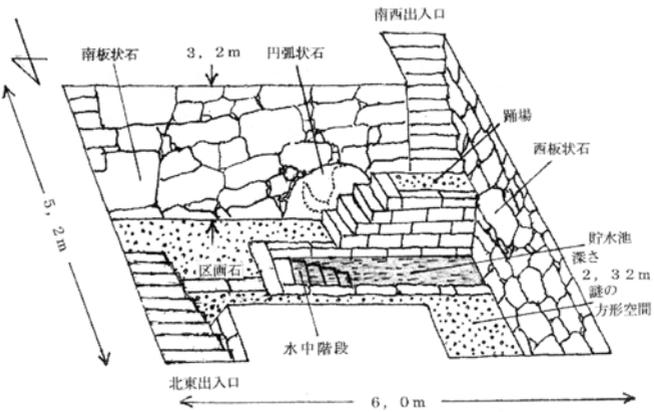
ここで声を大にして強調しておくべきことは、人吉城地下室遺構を除いてミクヴェと同一構造を持つ構造物は日本国内のどこにも存在しないという重大な事実なのです。これまでに人吉市教育委員会は、人吉城地下室遺構と同様の構造物の存在を確かめるための全国的調査を何回

ターネットを使って探索に乗り出した結果だったのです。

なお、ミクヴェの存在については十年ほど前、人吉城歴史館を訪れた人が、「この地下室遺構は、私が昨年訪れたトルコの中世遺跡と全く同じ構造です。違うところは地



ユダヤ教博物館のパンフレットより

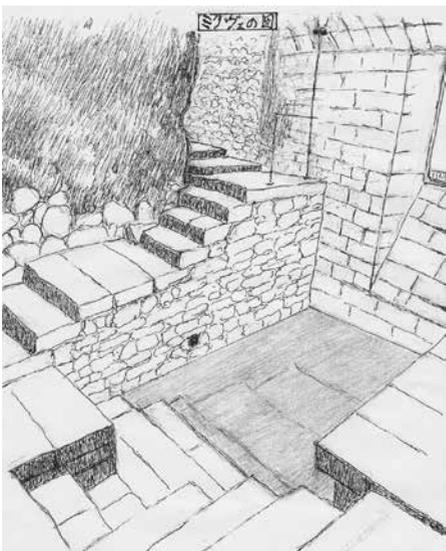


人吉城西地下室遺構見取図 (07. 原田)

も実施しています。もちろん、その様な構造物が存在するはずがなく、調査はいずれも失敗に終わっています。調査の目的は、貯水池を洗礼

池とする私の見解を否定するために国内の何力所かのお寺に行水用のものだと反論したかったように思われます。調査は不発に終わりましたが、人吉城地下室遺構が日本唯一の貴重な存在であることを明らかにしてくれたことは、大変有り難いことです。

人吉城地下室遺構が日本唯一の



ユダヤ教博物館の資料の写真をスケッチしたものです。平地に建造されているために、右上に明かり取りの窓があります。ユダヤ教では、出入口口が同じだと体を洗っても再び汚れるため入口と出口が別です。キリスト教にはこのような考え方はなく、出入口口は一つです。

と云えるでしょう。したがって学術的な評価を下すに値しないこの様な人達の存在からも、国宝は無理だとし

存在であって、しかも中東からヨーロッパにかけての歴史的建造物と密接に結びつくものであることからすれば、世界歴史遺産や国宝への登録もあながち夢物語ではなさそうにさえ思われます。今後の情報発信により国内はもちろん、国外からも関心を持つ人達が人吉を指して次々と来訪するのは確実なことだと

ても国の重要文化財には認定されるでしょう。それにしても、この様な価値の高い建造物を禁教令発令後に、平然として造り上げた相良清兵衛という人物の豪胆にして緻密な計画性を伴う精神構造には大変驚かされます。

さて前論はここまでとして、本論に入ります。今回の発見によって人吉城地下室遺構の貯水池を洗礼池とする私の見解が正しく、人吉市教育委員会ないし人吉市の公的見解である貯水池を大井戸とする主張は間違いであることが明らかになったと云えるでしょう。この結論に至るまで二十年の歳月が流れました。この間の出来事に思いを馳せると、まことに感慨無量なものがあります。

遺構の貯水池を真実とは無縁の大井戸としたことについては、遺構の発掘復元に関与した一部の人が、

ないしは、人吉市によって説明されるものだと思います。

遺構が隠れキリシタンまみれであることを見て、これが世間に知れたら大変なことになると思い、「大井戸説」を創り出したものだとする話が、内部の人から伝えられていると聞いた

二十年前の人達がやったことだから現在の関係者には全く無関係なはずだ、では済まされぬことなので。何故ならば、その真実に反する行為が解決されぬまま、現在まで

ことがあります。もちろん、これは噂話の類いですから絶対的なものはありません。しかし、そうであったとしても、大井戸と言った説明が現在も続けられていることからすれば、このことを発案した人がいるのは間違いなことであり、この様なことが一人だけで勝手に決められるはずもないのは明白です。この様な問題を含めて、遺構をめぐる一切の疑問点が今後、人吉市教育委員会

継承されていることは、まことに残念でなりません。更に遺構の発掘当初、正しくキリシタン建造物であると発表されたとすれば、国内は勿論、世界各国、特にキリスト教国の熱い注目を浴びたのは確実なことであり、人吉への来訪者が急増したに違いありません。したがってこの二十一年間に地域が受けた有形無形の損失が莫大なものなることを忘れてはいけません。

最後になりましたが、永年にわたり私の主張をご理解いただき支持・応援下さいました方々に対しまして心より厚く御礼申し上げます。晴れの国・備中倉敷の里より皆様の懐かしき面影を偲びつつ。

うち廻る山並みはるか清水湧く

我が古里は麗しの里

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

相良清兵衛生誕四百五十年

—書き下ろし小説について—

山口啓二

相良家歴代家臣の中で最も優れた人材であったと称される相良清兵衛は、今年が生誕四百五十年。

一五六八（永禄十）年八月二日、のちの水俣城代家老犬童頼安の長男として上村に生まれ、幼くして人吉城のすぐ傍にあった「延命院」に修業のために預けられた。十四歳の時、父頼安が護る水俣城が薩摩の大軍に攻められ、ひとり人吉を抜け出し水俣城に入り初陣。その後、城は没収、島津の軍門に下り、堅志田、高森や豊後大友攻めに加わった。豊臣秀吉が島津平定に八代に赴いた二十代頼房公と筆頭家老深水宗芳、父頼安らと秀吉や石田三成と会談、相良家安堵を勝ち取った。

一五九二（文禄元）年からの文禄・慶長の役に「相良」の姓を賜り出陣、実質の大将として若き君主頼房公を支え、兵八百を従え多数の軍功を得て秀吉から感状授与。

た。その後弘前藩主に仕え新田開発や薬学・易学・武道など様々を享受、二百俵三十人扶を拝領。八十八歳で亡くなった。その後弘前藩主に仕え新田開発や薬学・易学・武道など様々を享受、二百俵三十人扶を拝領。八十八歳で亡くなった。

弘前での多くの功績を認められ、津軽藩主から「成徳院殿天金本然大居士」の戒名を賜った。殿様並みの諡である。

人吉地方では相良清兵衛の事を「せいびやーどん」と親しみを込めて呼んでいたそうだ。これは西郷隆盛を「せいごどん」と呼んだのと同様、敬愛の念の表れであろう。人吉球磨の文化財がこれほど多く遺されたのも清兵衛のお陰だと言われている。実際、青井神社社殿をはじめ各神社仏閣の改修、人吉市街地の整備、人吉大橋の架橋などに尽力している。史実に書かれている程の悪人であったのか、どうも負ければ賊の感が拭えない。清兵衛の功績はもともとと評価されるべきであらうとの思いで、生誕四五〇年に当たる今年小説を書いてみた。

【やまぐち・けいじ／人吉市】

秀吉亡きあとの二六〇〇（慶長五

年、関ヶ原の戦いでは石田三成の本拠地岐阜大垣城を護ったが、清兵衛の策により同じく城を守る三成の妹婿はじめ五人の武将の首を捕り家康に贈って徳川軍に寝返る。既に四百年続く相良家の安泰に尽力した大きな出来事である。こうして家康との信頼関係を作った。

その後名実ともに筆頭家老として近世人吉城の造営と城下町・商人町・職人町・唐人町などの街割りを整え、人吉大橋・小俣橋を架け、現在の青井神社社殿をはじめ各神社仏閣の修造や新田開発・造林業・薬草研究に尽力した。ほか医学・易学・武道にも秀でていた。

後年、藩の権力を欲しいままにしたとして七十三歳の時二十一代頼寛公により幕府に訴えられ、江戸に召喚された。

このあと、養子半兵衛の造反で城下最大の内乱「お下の乱」により清兵衛一族百二十一名が惨殺。

評定により清兵衛は関ヶ原以降家康公お目見えの立場にあるとし切腹を免れ、青森の弘前藩津軽家へ流罪となっ

くまがわ狂句

村上鬼拳

ポツン 軒校に声掛けてやり
雑木林 モデルの方も大胆か
痛い 口の滑った車中談
銭失して 君にや似合わん舞扇
かも知れん 故買の線で追うつもり
もみじマーク ベテランマークちゅうとばい
しぶとぎが 押し入れはまだ懲りらんか
愛想もこそも チップ取り戻そう知たる
できる事なら 来世もちゅうは無理だろか
何を今更 お互い空気でっしゅうが

【むらかみ・きけん／人吉市】

小説・相良清兵衛

②

山口啓二

大垣城で物見の者から東軍勝利の一報を聞いた頼房公や清兵衛、種長、元種公は早速軍議を開き、この度の計画を実行する時が来たと確信した。

「このままですとこの城ごと討ち取られてしまいます。かくなる上は先般の申し合わせの通りにいたしましょう。それが全うできなければお家の存続は不可能にござりまする」

翌十六日早朝、直政から早馬の書状が届いた。内容は、『三成直下の家臣の首を討ち捕ればその事を家康公に報告して信義を請う。よってすみやかに実行せよ。拙者、実は昨日の戦で右肘を負傷し、花押押印は適わぬ』

「各々方、いざ決行致しましょう。拙者二の丸の三將を城壁の外におびき出してこれを斬りまする」

清兵衛は早速段取りにかかった。先ず、二の丸を警護する垣見以下三將に

「前回のあらずじ」秀吉急逝により朝鮮から帰国した相良軍の大將、相良清兵衛は、戦友である秋月種長・高橋元種らと共に関ヶ原・大垣城の戦に赴き、一旦は西軍として石田三成側についたが、徳川を恐れ東軍に寝返ることになった。

「すでに敵がとり囲み始めましたが、いま城外にある竹林はいざ敵が攻め込んで参った折りには誠に不便であります故、これを伐つて堀と塁の修復が急ぎ必要かと存じます。しからば各々方、自らこれをご覧戴き、自らの兵に指図されん事を願いまする」。

垣見、熊谷、木村の三將とも同意し、城の周りを見分する事にした。

頼房公と清兵衛頼兄はその後、神瀬九兵衛、蓑田甚兵衛ら幹部を呼び寄せ、清兵衛が

「この度相良家存亡の事態につき、打ち合わせ通りに行うべし。若し達成出来なければ主君頼房公と死を共に

する。我ら城を出たのち城門は固く閉ざし、一兵も外に出してはならぬ。ここに居る者はその決死隊である。討ち取りの合図をしたら速やかに仕留めるべし。よいな」

選ばれた精鋭十人余りの相良武士は速やかに行動し、そつと城を抜け出すと門の外に隠れ待ち伏せの態勢を取った。清兵衛はこの時密かに内衣に鎖のかたびらを装着し、軽装の卒兵豊永五助一人だけ連れて二の丸に入った。すると家純ほか各將はすでにみな鎧兜を着用し始めていた。清兵衛はその姿を見て驚いた仕事をし、

「おう各々方、そのような嚴重なる武装をされておつてはいざ敵に見つかれば警戒され、たちどころに攻撃されてしまいます。ここは甲冑を脱がれ、身軽な服装にて巡視に参りましょうぞ」

「そう言えばいかにも。このまま出向いたらすぐに討たれるやもしれぬな」

そう言うつて、甲冑をすべて外して雑兵を各々三人ばかり連れ、門の外に出ていった。門は固く閉ざされた。すると豊永五助は素知らぬふりで竿を持ち竹藪の測量にかかった。三將はその仕草を見ながら清兵衛頼兄と堀の位置などを話し合っていた。

その時清兵衛の合図があった。勿論声を立てず、左手に持った鞭を振り上げただけであった。

先ず清兵衛頼兄がすぐ横にいた家純を斬つて捨てた。家純の卒兵の一人が手にした槍を咄嗟に清兵衛の背中に突き立てたが、鉄鎖の内衣を着ていたため槍は刺す筈がなかった。家純の三人の卒兵はその場ですでに頼兄に斬られていた。

合図を待つて構えていた神瀬九兵衛と蓑田甚兵衛が、残る二人の武將とその卒兵の前に音も無く近寄るとあつという間にその命を奪った。日ごろからのタイ捨流鍛錬に務めた強者だった。しかしそれでも味方に数人の死者とけが人が出た。電光石火の如き出来事であった。

事が終わると門を開かせ、頼房公、種長公、元種公は直ちに首を檢めた。これら武將の首はすぐに徳川軍

■主な登場人物
相良清兵衛(犬童頼兄)＝相良藩家老
相良頼房(長每)＝相良家第20代当主
秋月種長＝頼房の戦友、日向高鍋藩の藩主
高橋元種＝種長の実弟、延岡藩の藩主

の水野勝茂を通じ井伊直政に送られた。次は二の丸を護る卒兵の始末であった。百人程で守られた城は各々の大将もすでおらず意外と容易く落ちた。その間に本丸は扉を固く閉じ、福原直高は籠城を選んだ。首を見分した直政には、秋月と高橋、相良をもつてこのまま一気に入りに福原を攻めたい旨を伝えたが、返事は『待て』であった。夕刻まで硬直した状態が続いた。完全に城を取り囲んでいたところへ水野勝茂らの軍が到着した。

勝茂らはそのまま本丸を攻めたが、櫓からの弓矢と鉄砲の攻撃は凄まじく一向に墮ちる気配がなく、相良秋月高橋三軍に応援を求める始末であった。そのまま夜を迎えた。

早朝、相良軍は清兵衛達が考案した得意の亀甲車を仕立て、本丸の門に一気に乗り付けた。

この亀甲車とはかつて相良軍が島津と共に阿蘇堅志田城を攻めるときに今は亡き盟友深水摂津介と考えた、しつかり濡らした戸板に更に生板を張り付け荷車を囲い、小窓を開けてそこから矢や鉄砲で撃ち抜くもので、この車は朝鮮・蔚山での戦いでも黒田官兵衛のもとに見

「おお、朝鮮での活躍もたびたび耳に入っておったが、あ奴またしてもやりおったか。構わぬ、同道いたすよう伝えよ」

「はは、実は相良清兵衛、すでに草津入りしておりますが、ここは主君の到着を待つて東照公にお目見えするのが当然とし、裏に控えてございます。なに分、義を重んずる者にござりまする様で」。

「それは忠義よのう。皆が参つたらすぐに案内せよ」
二日後の昼すぎ、伏見城でようやく家康とのお目見えが叶った。

「相良殿、この度は大義であったのう。秋月殿も高橋殿もよき働きじゃった。先般の誓紙の通りの凶り様、流石は名だたる相良殿じゃ。それに清兵衛と申したな、この度の事長政より詳しく報告を受けておる。首尾万端整い、活躍誠に天晴れであった。重畳、重畳」

「ははっ、有り難きお褒めのお言葉、頼房恐悦に存じます。我ら三将、終生東照公にお仕えして参る所存にございます。その証として先ずは我が生母了玄院を質として江戸に送りたく存じます」。

事に役目を果たした。弓矢や鉄砲の攻撃を躲した亀甲車は城門にたどり着いた。そして扉の金具を外し始めた。ようやく門が開き、そこへ待ち構えた三軍が一斉に城内へとなだれ込んだ。火矢が放たれ、激戦となり一進一退が続き、味方にも死傷者が何人も出た。そこで敵將に矢文を送り降伏を促した。しばらくして頭を丸めた数人が本丸を去るのが見えた。蓑田甚兵衛はそれが福原直高であることを確信したが、わざと見過ごした。大将がいなければ兵はすぐに降伏すると考えたのだ。大将らが逃げたと知ると卒兵も遂に観念し、白旗を挙げて降伏した。数日後に福原直高らは捕えられた。

すでに送られていた垣見・熊谷・木村らの首は水野勝成を介して、草津に来ていた家康の元に届けられ、見分が済んでいた。敵の各將の死を知った家康は、

「さすがは誉れ高き相良殿じゃ、秋月殿も高橋殿もようやつてくれた。直政、すぐに各將を呼び集めい」

「かしこまつてございます。この戦略を立てましたのは相良筆頭家老の相良清兵衛頼兄にござりますれば、この者も一緒にお目通り戴けますまいか」

「そうかそうか、あい解った。質の件はまあ慌てずともよいが、そうなれば諸侯からも申し出があるやもしれぬな。その事については藤堂高虎と話されるがよからう。そうじゃ清兵衛、清正がたらふく酒を飲んだ折、朝鮮での虎退治について口を滑らせおったが、あれもそちがお膳立てをしたのじゃそうなのう。虎退治というより、そちの生け捕った虎を突いただけだったか」

「恐れ入ります。あの折は北方から御帰還の途中。清正殿は皇子二人には会われ捕えたが、とうとう虎には巡り会わなんだ、とか申しておいででございました」。

「そうか。ときに頼房殿、相良東方の米良と椎葉で不穩の動きがあると聞き及んでいるが、そちになんとか収めてもらいたい。それが叶えば米良は高橋殿に、椎葉は相良殿に任せる所存だがどうじゃ」

「かしこまりましてございます。この清兵衛とともに対処いたしますよ」

「そうしてくれるか。あの地は平安の世からもめ事が絶えないゆえ、天領として今まで治めて参った様だが、なにせ遠く離れた所で目が届かぬ。相良殿が眼をかけて

くれれば安泰じゃ、のう長政」。

「仰せのとおりでございます。相良殿は鎌倉よりの御家柄、頼房殿期待しておりますぞ」

「東照公様、清兵衛、殿になり替わりまして誠に恐縮なお願いがございます」

「如何した清兵衛、何なりと申すが良い」

「実は、朝鮮で無事に役目を果たした折には、我が人吉の守り神青井社を立派に建て直すとお誓い申して出陣いたしましたでございます。お陰を持ち、なんとか此度の戦も殿と共に無事に生き延びましてござる。そこでお願いでございますが、青井社を建て替える折りに必要な大工や鋳職人、漆職人を球磨に遣わしては戴かせぬかと。さすれば、我が相良家の良き守り神になるかと存じ上げます」

「ほう、青井社とは確か阿蘇社の末社でございますか」

「あい解った。その件は息子の秀忠と相談なされよ。余の方から指図を致しておくゆえ」

「有り難き幸せでございます。この清兵衛途方もなきお願いを申し、誠に恐縮至極に御座りまするがお願い

入れただければ実に有り難きこと。さすればあの地に立派な社殿を造りたく存じ上げます。のう清兵衛」

「いかに。誠に有り難き幸せでございます」

「相良殿、お手前の地には良い木がたくさんござろうが、社殿の柱になる主だった木は儂に送らせて貰おうか。木曾の山の木を手配するゆえ使われるが良い。あの地方の木はお伊勢さんにも使われておるぞのう」

「それはありがたいこと。心よりお礼申し上げます」

「おう、さすればどこやらに彫りものも居るでござろうのう。下絵は懇意にしておる狩野派のいずれかを紹介するゆえ、いい図案を考えてくれると思うぞ。ま、期待しておれ」

「東昭公様、それはそれは重ねて恐れ入っております」

「相良殿、そこの此度の大垣での働きはのう、それほどの価値があったという事よ。あつはつは」

十月一日、京都六条河原において石田三成、小西行長、長束正家らが処刑され三条河原に晒された。それを見

届けるようにして相良軍はようやく帰路に就いた。しかし、蓑田甚兵衛は三成の妹婿である敵将の福原直高の逃亡を見逃した、という罪で頼房公からお咎めを受け、しばし京都相良屋敷にとどめ置くこととなった。甚兵衛は朝鮮でも大いに活躍し、多くの手柄をあげたので公より幾度も褒美を授かっていたので意外な処分であった。

「甚兵衛にはとても美しい妻『よし』と三つになる息子の『半兵衛』がいた。清兵衛と共に四年前朝鮮から一時帰国した折に出来た子であった。すでに山からの風は冷たく、こんな朝の人吉は霧が深くて寒いだらうと旅先の話題に上がった。相良家も秋月家、高橋家と共に領土はそのまま安堵され、またしても難を逃れ今度は徳川家へ仕える事となったのである。

天下分け目の大決戦が終わり、相良軍は冬を眼の前にした霧深い日、ひと月をかけてようやく人吉に帰国する事が出来た。暮れの十一月十三日、前の年に秋月家から興入れた頼房公の正室いく殿が待望の男の子を生んだ。『長寿丸』と命名されその誕生祝いはお家存続の事も合わせ盛大に行われた。正月が明け、人吉にも静かな

考古学はドラマだ。

肥後と球磨
その原史世界に
魅せられし人々

肥後と球磨の考古学史

木崎康弘
Kosaki Yasuhiko

※九州内の紀伊國屋書店を中心に熊本市内の主要書店
人吉球磨の書店、Amazonと取扱中。

■A5判/約600頁/上製本 ■発行元
■定価3,000円(+税)送料200円 人吉中央出版社

生活が訪れるはずであった。頼房公も徳川家血筋の名前に当たる為とし、名を『長毎』公に改められた。清兵衛頼房兄は関ヶ原・大垣の軍功により五五〇石が増ざれ、計二五〇石となった。清正公は球磨を除く肥後の全土五十四万石を賜った。

【やまぐち・けいじ／人吉市】

人吉球磨児童生徒文詩集「やまぎり」から

第35号(2009年3月発行) 選・作文の会

ぜんざい

今年はおばあちゃんのあったかい気持ちが
 いっぱいまったぜんざいを食べる
 「ちよつとうすかったかな。」と
 心配そうに差し出すおばあちゃん
 でもとてもおいしい味だ
 心あつたまる
 おばあちゃんの家族みんなを喜ばせる気持ちが
 つしほつしまつてくる

地域文詩集「やまぎり」について

1974年に創刊された人吉球磨作
 文の会発行の「やまぎり」は、2009
 年3月の第35号をもって休刊となりまし

た。「週刊ひとよし」時代より長きにわ
 たり掲載してきましたが、今号で終わ
 ります。いずれ「やまぎり選集」が発刊さ
 れることを願って本連載を閉じます。

人吉二中 二年 高場 藍加

来年もいつも笑顔でいる
 おばあちゃんに会いに行こう
 日本一のおばあちゃんのぜんざいを食べに
 行こう

【評】家族の温かさが読み手にまで広がる詩
 です。現在形の言い切りで語尾が結ばれてい
 ることから、おいしいぜんざいをたべなが
 ら、おばあちゃんを想う高場さんの気持ち
 がより強く伝わってきます。

外来語から学ぶ英単語 (23) …… 藤原 宏

テキスト・テキストブック・コンテキスト・プリテキスト
 text textbook context pretext

text (テキスト・テキスト) は、一般的には書物などで註釈や挿絵などを除いた本文のことですが、翻訳などに対する原文、討論などの題目の意でも使われます。

text だけで教科書の意で使うこともあります。教科書は普通 textbook (テキストブック) といいます。「a textbook father (ファーザー)、申し分のない父」のように「模範的な」の意で皮肉って使うこともあります。

text の語源は、ラテン語「texere (テックセル)、織る・編む」の過去分詞形「textus (テックストゥス)、織られたもの・編まれたもの」で、text には文章が「編まれたもの」の意が含まれています。

text の派生語「context (コンテキスト)、文脈・事柄・事件の前後関係」は、「con (共に) + text (織る)」(織り合わせる)、「pretext (プリテキスト)、口実・包み隠し」は、「pre (前に) + text (編む)」(前もって編んでおく) が原義です。390の「text・texture・textile・Tex」と関連します。(389)



つづい…
 げっかん・ぎびょう

— 6月までの通常国会で安倍改憲発議! —

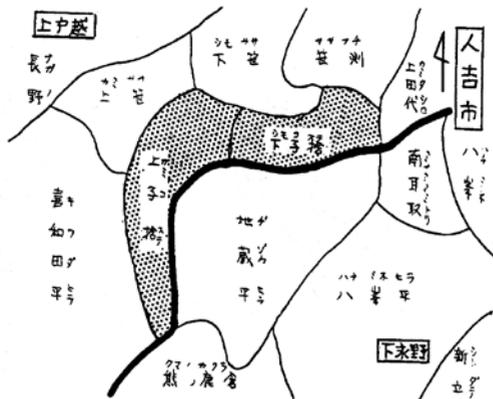
日米安全保障、安保法制。改憲によって「戦争できる国」へと変貌する。安倍政権下での改憲に反対の声多し。

字図で見る球磨の地名 ② 上村重次

子捨 (コステ)

— 人吉市上戸越町 —

ムラ区域の先端を表現する地名の中には球磨村神瀬字紫野のように上品なネーミングがある一方では、人



吉市上戸越町字上子捨(カミコステ)字下子捨(シモコステ)や五木村の子別峠(コベツトウ)などのように悲惨な漢字を当てる所もある。

人吉市上戸越町字上・下子捨を先端地名と断定するのは、字図によって下永野との境界に位置することが明白だからである。しかし、地名の子捨が文字通りの子捨場というわけではない。境界地に名付けられた子捨はどんな意味があるのかについては、これから考える。

ふだん何気なく使っている日常語の中には意味不明の「子」が幾つもある。

帽子、障子、椅子、扇子、息子ン子、娘ン子、隅っこなどの子やコは語尾の

このように推理の糸をたぐってくる、問題のカギは「捨」にあることがわかる。捨銭(すてぎに)、捨売(すてうり)、捨台詞(すてぜりふ)など捨の熟語はいろいろあるが、地名用語になじむ語は見つからない。「地名を知らんと欲すれば地名に聞く」のが一番。球磨地区の捨地名を検索した結果、人吉市木地屋町字捨利(スバリ)があった。現行字名は捨り(スバリ)になっている。字図を見ると大字古仏頂との境に位置する。

『日本方言大辞典』を見ると、球磨では末っ子をスツタイゴと言う。九州では先端のことをシツタレ、スツタレと呼ぶ語が転化したのであろう。漢字は尻垂(しりたれ、尻肉の先端)が当てである。

木地屋町字捨利はムラ区域の端っこを尻垂(しりたれ)と表現したのが、

スツタレ↓スタリと変化した経緯が理解できる。上戸越町字上・下子捨は小尻垂(コスタリ)だったのが子捨に当て字され、コステと読まれるようになったのであろう。子捨に向かい合う下永野町字地蔵平(ヂゾウヒラ)は境界守護の地蔵尊にちなむのか、或いは子捨に対応して子供救済の地蔵尊が祀られて地名化したことも想像される。

田子山 (タゴヤマ)

— 錦町木上 —

田子山は高原台地にある小字であつて山の名称ではない。田子地名については『萬葉集』巻三・318の有名な歌がある。

たこのうらゆ うちいでてわれは ましつにぞ
田児之浦徒 打出而見者 真白衣
ふじのたかねに ゆきはふりける

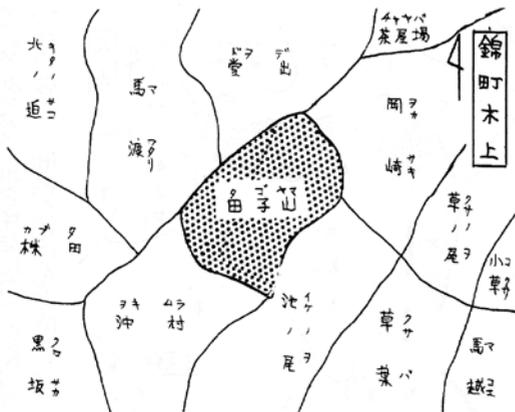
【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版です。あえて合併前の町村名をそのまま使用しています。

付けたらであつて、無くてよい語である。東北の人たちが、ドジョッコ、フナッコなどというコと同じである。語尾とは反対に語頭に付けるコも似たようなもの。コしゃく、コぎれい、コ気味よい、などのコは小が当てられる。

地名用語の場合は小(コ)と子(コ)の明確な使い分けは見られない。子別峠を小別当の当て字と推理するのはそのためである。この論法からすれば子捨は小捨に置き換えることもできよう。間引きや捨子は古くから行われていたが、それが地名化するとは思えない点でも、子捨は小捨と見る方が理にかなうであろう。

不盡能高嶺爾 雪波零家留

この歌は山部宿禰赤人(やまへのすくねあかひと)が富士山を望んで詠んだ長歌の反歌であり、田児之浦は静岡県富士市の海浜で駿河湾の湾奥に位置する。田子浦と木上の田子山の「田子」は共通した地



名であろう。時と所を遠く隔てて同意地名が存在するのには強い関心を抱かずにはおれない。

田子地名は萬葉の歌枕になっていくこともあつて昔から種々の説が発表されているが、納得できる論考に出合つたことがない。静岡県の田子の浦に限れば、諸説それぞれに理があるものの、全国的に散在する田子地名をカバーできるものではない。

『大言海』には「田子 たご(子)は舟子、馬子の子と同じ)、田を作る者、田人(たびと) 農民」「担桶 たご(田籠の義、或いは田子浦の義で田子の浦の汐汲桶に起こる) ない桶、こえたご(肥桶)の略」「団子 たご」などがあげてある。田子の浦の地名解説は農民、田舎、担桶(たご)の視点で展開されている。そのような近視眼

的な解釈は錦町木上宇田子山にあてはめようもない。

視野を広げてみる。熊本県内の字名では玉名市北坂門宇田子山(タゴヤマ)、鹿本郡菊鹿町松尾宇田子山(タゴヤマ)、同郡檀木町轟宇田子山(タネヤマ)、八代市野田崎宇田子崎(タゴサキ)、阿蘇郡蘇陽町大野宇田子水(タゴミヅ)があり、熊本市旧島崎村字団子原(ダゴバル)も同系地名と思われる。

これらのタゴ地名はほとんどムラ境にある。そこで県境のタゴ地名を探したら山形県東置賜郡駄子町(ダシゴマチ)は宮城県境に位置し、新潟・群馬県境の丹後山(タンゴヤマ、1809)、京都・兵庫県境の丹後山地(タンゴサンチ)、新潟・福島県境の談合峰(ダンゴミネ、1027)などがあった。

談合峰で思い出されるのは天草郡大矢野町湯島の別称、談合島(ダンゴジマ)である。天草乱の前、一揆勢が談合した島と伝えられるが確証はなく用字にちなんだ俗説であらう。

談合は談り合ひの音読である。タゴ地名は談合場のことと思われ、そのルーツは萬葉時代の嬬歌(かがい、歌垣)であらう。古代の人々がムラ・性別の垣根を超越して自由行動ができたところをインテリは嬬歌場と称し、民衆は談合場と呼んでいたことから後には催合地、入会地がタゴ(談合)になり、田子の字が当てられたのだろう。木上宇田子山は入会地の表現と判断する。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

話題を追って

戦争を考える講演会

24日、早春文化の集い

先の大戦の際、自由を奪われた人々に学び、戦争とは何かを考える講演会「2018年多喜二・百合子に学び・語る早春文化の集い」が2月24日、人吉市の中小企業大学人吉校で開催される。

講師は長崎新聞社報道局長の森永玲氏で、「反戦主義者なる事通告申し上げます」と宣言し、「思想犯」に仕立てられた長崎県出身の結核医、末永敏事(びんじ)の生き様を紹介し、治安維持法体制下での思想監視とは何かを学び、現政権の政策を検証する。

くまがわ春秋歌壇

いもこ短歌会

古き道朽ちし小さき祠あり誰が手になりて何を祀るや

山里に古き民家の一軒家みだれ咲きたるさざんかの花

坂本 ケイ

廃屋の庭にたわわのみかん熟る冬の陽ざしに輝きおりぬ

年上の夫に引かれて杖をつく支えつづけて生きたきものを

上田 迪子

閉じられて国民宿舎幾日に程よき温泉に和みしものを

丸ごとのキャベツを買えぬかなしみを君は知るまじ畑のキャベツよ

宮原 征子

山あいの里に伴侶を見送りし寡黙なる父卒寿を生きる

寒風に固き蕾の沈丁花顔近づけて春の日を待つ

宮川しのぶ

沖繩の怒りはもはや極まれり相次ぐ不時着部品落下に

落ち来るは雨だけにしてと沖繩の若き母親を抱き咽ぶ

上田 精一

話題を追って

4月からの国民保険料

国民健康保険法の改訂にともない、都道府県が財政の運営主体になることから、熊本県は加入者1人当たりの保険料を算定し公表した。じつさいの保険料は県の算定額をもとに市町村が決定することになっていくが、大半の市町村は県の算定額をそのまま採用すると予想

八代市	91,151
人吉市	88,190
あさぎり町	103,622
錦町	86,173
湯前町	85,216
多良木町	86,368
水上村	73,258
球磨村	68,080
山江村	62,429
相良村	96,889
五木村	72,770
芦北町	61,832
津奈木町	49,420
水俣市	56,815
熊本県平均	86,090

今年度 (2018年度) 国保料

国保料を税金方式で課している自治体もあるが、名称が異なるだけである。過疎化の進行などにともない、自治体が単独で健康保険

される。県は、市町村ごとの医療費・所得水準を参考にして算定。保険料の徴収・書類の交付は、これまで通り、市町村がおこなう。

急激な変化を避けるため、いまのところ、市町村ごとに保険料に格差が存在するが、今後しだいに格差を縮小させていく予定である。

標準保険額はあくまで目安で、所得のちがいによって具体的な個人の保険料は異なる。高額所得者と低所得者の保険料が同一ということにならない。

事業を実施するのが困難になっているため制度改訂にいたった。国民保険は自営業者などに適用される保険で、被用者に適用される健康保険とは異なる。

平均所得の順位

順番をつけたがるむきがある。特に所得(収入)は話題になりやすく職業別ランキングは雑誌の目玉記事になるほど。そうした時流に乗るわけではないが、くまがわ流域の所得水準を知っておくことは無意味ではなからう。他地域と比較するとき、自己の位置も明確になる。そこで、引用度の高いWEBサイト(年収サイト)の順位表を紹介する。同サイトは、総務省統計を基礎に全

国1万7417の市町村の平均所得をランキング化し、それを公表している。球磨川流域の自治体を見ると、表のように、いずれも下位である。上位は東京都港区、千代田区など都市部である。

こうした所得の順位化は当該自治体に失礼であるとの批判、住民の幸福度は所得でなく、住みややすさ、

八代市	259万4212円	1136位
人吉市	261万9994円	1094位
あさぎり町	229万2690円	1643位
錦町	231万9564円	1616位
湯前町	215万4919円	1724位
多良木町	242万8388円	1467位
水上村	226万8585円	1679位
球磨村	198万605円	1741位
山江村	212万8017円	1733位
相良村	218万7299円	1717位
五木村	225万3671円	1694位
芦北町	224万1237円	1697位
津奈木町	213万6146円	1732位
水俣市	250万7525円	1335位

16年度所得

幸福量で計られるべきであるとの批判がある。そうした批判を無意味とは思わないが、数量的側面も重要である。少なくともそれを無視するような姿勢は許されない。自己の位置を知ることがなによりも重要で、ここでは紹介できないが、県北と県南との「格差」も順位表にあらわれている。

八代市と人吉市の順位に疑問をいだく読者もいるだろう。旧八代市と平成の合併後の八代市のちがいを強調する読者もいるかもしれない。それでも統計上の結果は動かせない。

「年収サイト」は2010年から運用を開始している。7年間の変動

については機会を改めて紹介する。2017年の統計結果は発表されていない。

幸野溝・百太郎溝

水路群を活かす会発足

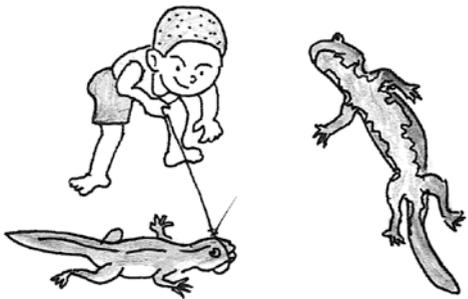
2016年11月に「世界かんがい施設遺産」に登録された幸野溝と百太郎溝の水路群を、観光振興などに活用することを目的とした「活かす会」が発足し、1月31日に県球磨地域振興局で設立総会が開かれた。

土地改良区、関係4町、観光関係、県など17の団体が協力することを確認。今後は、世界かんがい遺産を活用した地域のブランド化、イベントなどを活用していくという。

おっとわっとあすび その⑫

絵と文／松舟博満

池ん中きやにや木の葉や泥の溜
まっとつたで中さみやひやつて捕
まゆれば濁ってどこさみやいたか
わからじやつたで、池ん中きや浸
しおつた。



アカハラ引つ掛け
からじにや捕まえんばなんじやつ
た。

中から上ぐればアカハラは、ク
ルツてまん丸ひなつて動かじやつ
たで、そろつとワツサばゆるうし
て外じいて見れば、背中ん方にや
ブツツんあつてザラザラしとつ
て、裏返やあて見れば腹んほう
は、気色たんの悪うなつぐたる
あつか(赤)色しとつたで、だつ
がとがあつか所んのううか(多い)
か比べやあして又、池ん中きやな
んくうで逃ぎやておきおつた。

寒うひなれば、石ん下てろん
ゴモクん中きや何匹かづつか固
まつておつたで、そぎやん時にや
そろつと元んごしてあつかわじ
んおつて、アカハラとあすぶたあ
水ん中きやおつ時ばかりじやつ
た。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇
神社・文化苑「童遊館」】

くまがわ学習塾 ⑭

問1 日本の政党名とその党首名を書け(例:自由民主党 安倍晋三)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()
- ⑥ ()
- ⑦ ()
- ⑧ ()
- ⑨ ()
- ⑩ ()

問2 国民栄誉賞の受賞者を書け

(例:長島茂雄)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()
- ⑥ ()
- ⑦ ()
- ⑧ ()
- ⑨ ()
- ⑩ ()

問3 トルストイ『イワンの馬鹿』の

登場人物の名前を書け(例:イワン)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

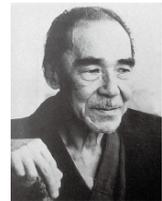
問4 写真を見て人物名を答えよ

① 須恵村を研究した人物



答 ()

② 相良村出身の作家



答 ()

※答え合わせは次号でおこないます。

前回の答え合わせは 87 頁で。

★全問正解者には抽選で弊社の書籍をプレゼントします。ハガキ又は封書で弊社まで解答をお送りください。

問3 江戸時代の熊本県内の「町名」を書け(例:八代町)

- ① (人吉町)
- ② (熊本町)
- ③ (高橋町)
- ④ (川尻町)
- ⑤ (高瀬町)

人吉町についてはひとまず別にする。細川領の場合、解答例の5つの町は在方とはちがいが、郡奉行(郡代)の支配から外し、町奉行の支配のもとで商人に特権的商業活動を許した。地理的にみれば、熊本を除き、すべて中世以来の商業都市で、近世になっても主要な港口で、このかぎりでは細川が重商主義的であった。同時に、在方に対しては農本主義的に対応し、町との関係では、二元的であった。これは細川独自の方法といわれる。宝暦6年(1756年)、宇土・鶴崎(大分)の二町を五ヶ町に追加した。鶴崎は細川の飛び地で、いわゆる「関サバ」は細川のものであった。細川は参勤交代のさい鶴崎を経由する場合が少なくなかった。宇土は宇土支藩(3石)内の町である。宇土支藩には城ではなく陣屋が置かれた。したがって、宇土町は城下町ではない。坂本の製紙工場の創始者のひとりである上羽勝衛は宇土支藩出身である。

問4 写真をみて問い答えよ。

- ①八代市の教会名を書け



答 (日本基督教団八代教会)

本誌21号36頁の森山学「建築みてある記⑩」参照

- ②球磨村の地藏堂の名前を書け



答 (横井地藏堂)

本誌21号12頁の宮原信晃「くまがわの神さん仏さん⑩」参照



今月の秀句

Selected Haiku of this Month

永田満徳選評・向瀬美音訳

このコーナーは、「二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れたHaiku」を提案している『俳句大学』facebookページからの転載です。

<https://www.facebook.com/groups/1805562046390300/>

Haiku Column ⑫

Starry Starry

●
the shortest day of the year
mother and daughter reunion in kitchen
【Commented by Mitsunori Nagata】
Toriawase of winter solstice, the shortest day of the year, one intimate scene with mother and daughter is cut and well described.

スターリー スターリー

●
冬至 -
母と娘はキッチンで仲良く
【永田満徳評】
一日中で最も日が短い特別な日である「冬至」との取り合わせによって、仲睦まじい「母と娘」の一情景が切り取られている。

Jean Baptiste Pelissier

●
galaxie d'Andromède ~
le chat dort en spirale
【Commented by Mitsunori NAGATA】
Il y a toriawase entre la spirale de la galaxie et l'image du chat qui dort en spirale. On voit ici l'étrangeté du toriawase.

ジャンパティスト ペイシエ

●
アンドロメダ星雲~
猫は螺旋状に寝る
【永田満徳評】
地上から宇宙へのイメージが拡大するのは「螺旋状」の星雲と猫の寝姿との取り合わせである。ここに取り合わせの妙味がある。

Anne-Marie Joubert-Gaillard

●
Elle raconte une histoire~
La bougie fond lentement
【Commented by Mitsunori NAGATA】
Le long dialogue chaleureux exprimé par la fonte de la bougie est extraordinaire. C'est l'exemple de haiku exprimé par un objet concret.

アンヌ・マリー ジュベール・ギャール

●
話を始める
ろうそくはゆっくり溶ける
【永田満徳評】
熱を帯び、長話になっていることを「ろうそく」の溶け具合で表現しているところがいい。「もの」で詠むことの見本である。

【訂正】前回3番目の作者名を Morgane Denoyers に訂正いたします。

【ながた・みつり/俳人協会会員、熊本市】

前号【くまがわ学習塾⑬の答え】

問1 () を埋め四字熟語を完成させよ (例:「() 助之功」⇒「内助之功」)

- ① (以) 心伝心
- ② (一) 心同体
- ③ (寸) 歩不離
- ④ 借(老) 同穴
- ⑤ 月下氷(人)
- ⑥ 相思(相) 愛
- ⑦ 夫唱婦(随)
- ⑧ 海約山(盟)
- ⑨ 合縁(奇) 縁
- ⑩ 鶏(鳴) 之助

〈四字熟語〉

四字熟語は、それ自体として、1980年代頃から使用されるようになった新しい言葉である。それまでは「熟語」、「故事成語」という広い概念のなかで捉えられていた。広辞苑第7版は「漢字四字で構成される成句や熟語」と定義し、その例を示していない。大辞林第3版は同一の説明をし「一日千秋」、傍若無人」を用例としてあげている。岩波国語辞典第7版はこれを掲載せず、三省堂国語辞典(三国)第7版は「漢字でできた熟語。ふつう、古くから言い習らわされている、音読みのものを言う。例、一心不乱、温故知新」と解説している。「四字熟語」だけをとれば「三国」がもっとも分かりやすい。けれども、「三国」だけで十分かといえ、そうではない。「四字熟語」は成長しつつあって、新明解四字熟語辞典のように「四字熟語」だけを対象にする辞典も登場するまでになっていて、今後も、四字熟語の世界は広がるであろう。言葉の海は深く、広く、その世界をみたいと一日千秋の思いもするが、だからといって傍若無人にならず、そのために一心不乱に努力しつつ温故知新に努めるほかない。

〈例示熟語の読みと意味〉

- ①以心伝心(いしんでんしん)。(禅宗で)言葉では説明できない深遠・微妙な教理を無言のうちに弟子に伝えること。[俗に、無言のうちに相手に分からせる意にも用いられる](新明確国語辞典第4版)
- ②一心同体(いっしんどうたい)。ふたり以上の人の気持ちがあっぴたりと一致すること。(新明確国語辞典第4版)
- ③寸歩不離(すんぽふり)。距離をおかず、すぐそばにいること。また、非常に密接な関係にあること、夫婦仲むつまじく、一步も離れないこと。(新明解四字熟語辞典第2版)
- ④借老同穴(かいろどうけつ)。夫婦仲むつまじく添いとげること。夫婦の

契りがかたく仲むつまじいこと。[補説]夫婦がともにむつまじく年を重ね、死後は同じ墓に葬られる意。(新明解四字熟語辞典第2版)

- ⑤月下氷人(げっかひょうじん)。縁結びの神。転じて、男女の縁の仲立ちをする人。仲人、媒酌人。[故事]唐の韋固(イコ)は若く、まだ結婚していなかった。旅先で、月明かりのもと袋によりかかって読書をしている不思議な老人に出会った。韋固が袋の中身を問うと、夫婦になる者の足を結ぶ縄だという。その後、韋固は老人の言ったとおり都の長官の娘と結婚した。(新明解四字熟語辞典第2版)
- ⑥相思相愛(そうしそうあい)男女がお互いに慕い合い、愛し合っていること。あいぼれ、相恋。(大辞林第3版)
- ⑦夫唱婦随(ふしょうふずい)。夫が言い出し、妻がそれに従うこと。(大辞林第3版)★筒井康隆『現代語裏辞典』(文藝春秋)は「婦唱不随」と擲諭する。
- ⑧海約山盟(かいやくさんめい)。海誓山盟(かいせいさんめい)と同じ。海と山が永遠であるように、永久に変わらない、夫婦の固いに誓い。(改訂新版漢字源)
- ⑨合縁奇縁(あいえんきえん)。人の交わりには互いに気がよく合う合わないがあつて、それは不思議な縁によるものだという事。(岩波国語辞典第7版)
- ⑩鶏鳴之助(けいめいのじょう)。内助の功があること。また、内助の功がある妻がいること。[故事]賢婦人が鶏の鳴くのを聞いて、もう朝になったと思い、夫が出勤に遅れてはいけなと起き出し夫を起こそうとしたが、実は聞きちがいで、まだ夜は開けていなかったという故事に由来。(新明解四字熟語辞典第2版)

問2 肥薩線の川線の駅を書け(例:西人吉駅)

- ① (段 駅)
- ② (坂本 駅)
- ③ (葉木 駅)
- ④ (鎌瀬 駅)
- ⑤ (瀬戸石 駅)
- ⑥ (海路 駅)
- ⑦ (吉尾 駅)
- ⑧ (白石 駅)
- ⑨ (球泉洞 駅)
- ⑩ (一勝地 駅)

球磨川流域の生活を考えるとき、肥薩線は重要である。そこで創刊以来、本誌は肥薩線の各駅を紹介してきた。生活との関係だけでなく、観光的にも優れた路線である。昨年12月、国際記念物遺跡会議(イコモス)は、「後世に残したい`日本の20世紀遺産20選、」のひとつに肥薩線を選出した(松本晋一「後世に残すべき`鉄道産業遺産、肥薩線の意義」本誌21号82頁以下参照)。他方、乗客数の大幅減少のなかで、JR九州は肥薩線の運行便数を減らす旨を決めた。営利企業である以上、赤字路線を縮小する方針を採用することは当然である。すばらしい路線であり、そのすばらしさが国際的にも認知されているなかでの運行便数の減少である。乗車すると分かるが、肥薩線は空席がめだつ。沿線住民は利用することを通じてこれを残すべきである(本誌22号巻頭言参照)

